

付録1

被害を受けた港湾施設一覧

(本報告に含まれる被災施設一覧)

注) 表中「-」はこれまでに情報収集が完了しなかった項目。

北海道開発局管内の港湾

霧多布港 外郭施設一直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	防波堤(東)	-	-	捨石式傾斜堤	-2.3m	-	-	334.5m	-
2	防波堤(西)	-	-	捨石式傾斜堤	-2.3m	-	-	186.1m	-
3	航路護岸	-	-	-	-4.7m	-	-	35.2m	-
4	東船溜防波堤	-	20.0m	-	-6.2m	-	-	20.0m	-
5	北防波堤	-	-	-	-6.5m	-	-	150.0m	-

水域施設一直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	浜中地区 泊地-2.5m	-	/	/	-2.5m	/	/	/	-
2	琵琶瀬地区 泊地-3.5m	-	/	/	-3.5m	/	/	/	-
3	琵琶瀬地区 泊地-3.0m	-	/	/	-3.0m	/	/	/	-

臨港交通施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	道路	-	-	-	-	-	-	77.9m	-

十勝港 水域施設一直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	中央航路 航路(-14.0m)	-	/	/	-14.0m	/	/	/	・海底地形が変化し、局部的に堆積
2	中央航路 航路(-13.0m)	-	/	/	-13.0m	/	/	/	・海底地形が変化し、局部的に堆積
3	第4ふ頭泊地 泊地(-13.0m)	-	/	/	-13.0m	/	/	/	・海底地形が変化し、局部的に堆積
4	第2ふ頭泊地 泊地(-7.5m)	-	/	/	-7.5m	/	/	/	・海底地形が変化し、局部的に堆積
5	外港地区泊地 泊地(-2.0m)	-	/	/	-2.0m	/	/	/	・海底地形が変化し、局部的に堆積

苫小牧港 外郭施設一直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	西港外港地区東防波堤	-	-	-	-	-	-	112.0m	-

# 八戸港

## 外郭施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	八太郎地区_北防波堤(基部)	S44	1,244m	消波ブロック被覆ケーソン・消波ブロック式	-10.3m	+5.0m	—	1,110m	・消波ブロック・根固ブロック・被覆ブロック散乱
	八太郎地区_北防波堤(中央部)	S46	1,550m	消波ブロック被覆ケーソン式	-10.0m	+5.0m	kh=0.10	1,410m	・60箇、滑動、転倒、水没
	八太郎地区_北防波堤(ハネ部)	H10	721.4m	消波ブロック被覆ケーソン式	-12.0m	+5.0m	—	721.4m	・42箇、滑動・転倒、水没/洗掘、最大7m程度
2	外港地区_第二中央防波堤	—	1,301m	消波ブロック被覆ケーソン式	-13.0m	+5.0m	kh=0.10	121.1m	・1箇、滑動、水没/洗掘、最大5m程度、ブロック散乱

## 外郭施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	沼館地区_1号護岸	—	—	矢板式	—	—	—	74.8m	・護岸の決壊
2	河原木地区_1号心頭東護岸	—	—	—	—	—	—	194.0m	・フェンス倒壊・舗装剥離
3	白銀地区_西防波堤	—	—	—	—	—	—	50.3m	・基礎洗掘
4	白銀地区_北防波堤	S41年度	630m	重力式混成堤	-15.9m	+5.0m	—	10m	・堤頭部(ケーソン1箇)転倒
5	河原木地区_廃棄物埋立護岸	不明	1,272m	重力式混成堤	-15.6m	+3.5m	0.18	50.6m	・隅各部(ケーソン3箇)転倒
6	八太郎地区_4号埠頭護岸	—	—	—	—	—	—	57.7m	—
7	八太郎地区_D岸壁取付護岸	—	—	—	—	—	—	39.9m	—

## 保留施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	河原木地区_2号心頭保安設備	—	—	—	—	—	—	381.5m	・フェンス倒壊
2	白銀地区_埠頭保安設備	—	—	—	—	—	—	28.3m	・フェンス倒壊
3	石油棧橋保安設備(3号棧橋)	—	—	—	—	—	—	4.5m	・フェンス倒壊
4	白銀地区_B岸壁	—	—	—	—	—	—	12.8m	・上部工破損・基礎洗掘
5	八太郎地区_1号埠頭保安設備	—	—	—	—	—	—	916.1m	—
6	八太郎地区_4号埠頭保安設備	—	—	—	—	—	—	491.4m	—
7	八太郎地区_E岸壁	—	—	—	—	—	—	11.8m	—
8	八太郎地区_2号埠頭保安設備(1岸壁)	—	—	—	—	—	—	188.4m	—
9	八太郎地区_2号埠頭保安設備(J岸壁)	—	—	—	—	—	—	380.7m	—

## 水域施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	八太郎地区_航路・泊地(-12m,-13m)	—	—	—	—	—	—	—	埋没土量約72.7m <sup>3</sup>
2	河原木地区_航路・泊地(-14m)	—	—	—	—	—	—	—	

## 水域施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	市川船溜-2.5m	—	/	/	-2.5m	/	/	/	・0.1~1.7m土砂が堆積
2	八太郎-10.0m	—	/	/	-10.0m	/	/	/	・0.1~0.8m土砂が堆積
3	八太郎-7.5m	—	/	/	-7.5m	/	/	/	・0.2~0.7m土砂が堆積
4	八太郎-13.0m	—	/	/	-13.0m	/	/	/	・0.1~1.8m土砂が堆積
5	河原木-7.5m	—	/	/	-7.5m	/	/	/	・0.2~1.5m土砂が堆積

## 臨港交通施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	沼館豊洲線	—	/	/	/	/	/	270.9m	—
2	八太郎大橋	—	/	/	/	/	/	45.3m	・高欄破損・舗装陥没
3	河原木2号心頭線	—	/	/	/	/	/	—	・分電盤浸水・中央分離帯標識灯浸水
4	河原木1号心頭1号線(1号)	—	/	/	/	/	/	—	・分電盤浸水・中央分離帯標識灯浸水
5	河原木1号心頭1号線(2号)	—	/	/	/	/	/	—	・中央分離帯標識灯浸水
6	河原木1号心頭1号線(3号)	—	/	/	/	/	/	—	・中央分離帯標識灯浸水
7	シーガルブリッジ	—	/	/	/	/	/	60.0m	・路面路肩決壊・地覆破損・高欄破損
8	河原木1号心頭2号線	—	/	/	/	/	/	41.5m	・排水工破損
9	河原木1号心頭線	—	/	/	/	/	/	68.2m	・ブロック飛散
10	八太郎2号埠頭北線	—	/	/	/	/	/	—	—
11	八太郎4号埠頭線	—	/	/	/	/	/	—	—
12	白銀北沼線	—	/	/	/	/	/	134.4m	—

## その他施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	八太郎地区_埠頭	—	—	—	—	—	—	151.3m	—

久慈港

外郭施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	半崎地区_波除堤	—	253m	ブロック式	—	DL+4.60m	—	253m	・上部工全て転倒、本体工69m転倒、施設の沈下、ブロック飛散
2	灣口地区_防波堤(北)	—	375m	ケーソン式	-25m	DL+4.0m	—	375m	・上部工及び本体工3箇破壊、ブロック飛散

外郭施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	半崎地区_1号護岸	H3	236m	混成	—	+5.0~5.5m	0.10	236m	・上部工、基礎工の損傷
2	半崎地区_波除堤	S63	34m	傾斜	—	—	—	34m	・消波工飛散、基礎工損傷、堤体工転倒
3	半崎地区_防波堤	—	320m	混成	—	+5.0~5.6m	—	23m	・消波工飛散
4	牛島地区_防波堤	S9	71m	直立	—	+3.3m	—	66m	・消波工飛散、堤体工損傷、基礎工洗掘
5	諏訪下地区_1号護岸	H10	—	—	—	+3.50m	—	60.0m	・上部工一部倒壊、本体工(方塊ブロック)一部崩壊、消波ブロックの沈下、散乱
6	諏訪下地区_防波堤	S42	—	—	—	+3.0~4.5m	—	5.0m	・上部工一部欠損、亀裂、消波ブロック移動・散乱
7	諏訪下地区_外防波堤	S61	—	—	—	+6.5m	—	293.1m	・消波ブロック散乱、ケーソン側壁欠損
8	諏訪下地区_護岸防波(1)(2)	S57	—	—	—	+6.0~7.5m	—	125.0m	・消波ブロック散乱、消波ブロック損傷、埋没
9	玉の籬地区_南護岸	—	—	—	—	+4.0~6.0m	—	36.5m	・上部工一部倒壊、消波ブロック散乱、手摺損傷(階段部)
10	玉の籬地区_外防波堤	S50	—	—	—	+5.6~6.0m	—	296.9m	・消波ブロックの散逸、腹付ブロックの損傷
11	玉の籬地区_北防波堤	S55	—	—	—	+4.0m	—	151.7m	・全体におよぶ倒壊、消波ブロック散逸
12	玉の籬地区_内防波堤	—	—	—	—	+2.5m	—	95.0m	・全体におよぶ倒壊
13	堀込地区_航路南護岸	—	—	—	—	+3.0m	—	112.3m	・法線のほらみ出し、水叩きの損傷、陥没、上部工目地部の損傷

係留施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	半崎地区_-4.0m物揚場	H6	670.0m	重力	-4.0m	+2.3m	0.10	40m	・上部工、堤体工の飛散、Co舗装の損傷、付属物の損傷
2	半崎地区_船揚場	H1	120.0m	—	—	—	0.10	—	・付属物の損傷、C-boxの飛散
3	堀込地区_-4.5m2~5号岸壁	S57	690.1m	直杭式棧橋	-4.5m	+2.3~3.0m	0.15	75m	・渡版、エプロン損傷
4	堀込地区_-6.0m岸壁	S44	210.0m	直杭式棧橋	-6.0m	+3.0m	0.15	75m	・擁壁倒壊、渡版、エプロン損傷
5	堀込地区_-4.5m1号岸壁	—	—	—	-5.0m	3.0m	0.10	—	・地盤変動に伴う沈下(沈下量17cm)、エプロン沈下
6	堀込地区_-2.0m物揚場	H7	—	—	-5.5m	+2.3m	0.10	—	・上部工の沈下、Iブロック舗装の沈下、水叩き沈下
7	諏訪下地区_-1.0m岸壁	—	—	—	—	+3.3m	—	23.7m	・上部工損傷
8	諏訪下地区_-7.5m2,3号岸壁	S63 H6	—	—	—	+3.3m	—	281.6m	・渡版破損、グレーチング版割れ欠損、Iブロック背後陥没
9	玉の籬地区_-2.0m物揚場	S32	—	—	-2.3m	+2.0m	0.05	—	・上部工の損傷、Iブロック舗装の割れ及び土砂流出
10	玉の籬地区_-3.0m物揚場	H9	—	—	-3.1m	+2.5m	0.10	—	・本体工倒壊、バックカバート倒壊
11	玉の籬地区_-2.0m物揚場	S55	—	—	-2.0m	+2.0m	0.10	—	・本体工傾斜、Iブロック沈下及び背後陥没

水域施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	半崎1号泊地	H3	/	/	-4.0m	/	/	/	・土砂の堆積
2	堀込航路	不明	/	/	-7.0m	/	/	/	・土砂の堆積
	堀込泊地	S44	/	/	-4.5m	/	/	/	・土砂の堆積
2	堀込航路泊地	S43	/	/	-6.0m	/	/	/	・土砂の堆積
					-4.5m	/	/	/	
3	諏訪下航路	不明	/	/	-11.0m	/	/	/	・土砂の堆積
	諏訪下1号泊地	S58	/	/	-7.5m	/	/	/	・土砂の堆積
	諏訪下航路泊地(-10m)	S58	/	/	-10.0m	/	/	/	・土砂の堆積
4	玉の籬1号泊地	不明	/	/	-3.0m	/	/	/	・土砂の堆積
	玉の籬2号泊地	不明	/	/	-2.0m	/	/	/	・土砂の堆積

臨港交通施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	臨海道路湾岸線	—	/	/	/	/	/	796.0m	・アphalt舗装の損傷、側溝蓋の飛散、歩車道境界ブロックの損傷、道路護岸上部工の飛散
2	臨港道路湾岸線	—	/	/	/	/	/	300.3m	・アphalt舗装、側溝の損傷、転落防止柵の損傷
3	半崎1号支線	—	/	/	/	/	/	143.8m	・アphalt舗装、側溝の損傷、転落防止柵の損傷
4	半崎2号支線	—	/	/	/	/	/	114.0m	・アphalt舗装、側溝の損傷、転落防止柵の損傷

5	半崎3号支線	—						23.5m	・落石防止柵の損傷、側溝蓋の飛散 歩車道境界ブロックの損傷、集水ます蓋の飛散
6	半崎線	—						223.1m	・落石防止柵の損傷、側溝蓋の飛散、 歩車道境界ブロックの損傷、集水ます蓋の飛散
7	半崎埠頭縦断線	—						250.7m	・アスファルト舗装、側溝の損傷、転落防止柵の損傷
8	半崎埠頭横断線	—						86.0m	・アスファルト舗装、側溝の損傷、転落防止柵の損傷

**その他施設**

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	半崎地区_離岸堤	—	238m			+2.6m		238m	・津波に伴う消波ブロックの散逸

宮古港

外郭施設－直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	竜崎地区_防波堤	—	Ⅱ区：142.04m	ケーソン式	—	Ⅱ区：DL+4.20m Ⅲ区：DL+4.70m	—	142.04m	・Ⅱ区：5箇、Ⅲ区：6箇が転倒、マウンドの洗掘、施設の沈下
			Ⅲ区：152.49m					152.49m	
2	出崎地区_防波堤	—	378.7m	ケーソン式	—	DL+4.00m	—	378.7m	・直線部ケーソンが全て転倒、マウンドの洗掘、施設の沈下(ハネ部 堤頭部1箇転倒、マウンドの洗掘、隅角部倒のバラベツが流失、施設の沈下)
3	藤原地区_藤原防波堤	—	737.7m	ケーソン式	—	DL+4.00m	—	737.7m	・堤頭部2箇転倒、マウンドの洗掘、施設の沈下
4	藤原地区_防波堤(Ⅱ)	—	263.7m	ケーソン式	—	DL+4.00m	—	263.7m	・Ⅰ区堤頭部1箇が傾斜、マウンドの洗掘、施設の沈下
5	藤原地区_心頭船溜防波堤	—	60.0m	ブロック式	—	DL+4.00m	—	60.0m	・ブロックの大半が転倒、消波ブロックの飛散、施設の沈下
6	藤原地区_藤原埠頭防波堤(第一波除)	—	50.5m	ブロック式	—	DL+3.90m	—	50.5m	・施設の沈下
7	藤原地区_藤原埠頭防波堤(第二波除)	—	55.4m	ブロック式	—	DL+3.50m	—	55.4m	・ブロックの半数が転倒、施設の沈下
8	藤原地区_木材港北防波堤	—	273.9m	ブロック式	—	DL+6.00m	—	202.4m	・施設の沈下
9	藤原地区_木材港南防波堤	—	5区：335.81m	ブロック式 ケーソン式	—	5区：DL-6.00m 7区：DL-9.00m	—	335.81m	・(5区)ブロック及びケーソンの大半が転倒、消波ブロックの飛散、施設の沈下(7区)ケーソンの大半が転倒、マウンドの洗掘、施設の沈下
			7区：82.09m					82.09m	
10	神林地区_北防波堤	—	50m	ケーソン式	—	DL+5.80m	—	50m	・ケーソンが全て転倒、マウンドの洗掘、施設の沈下
11	藤原地区_防波護岸	—	656.7m	ブロック式	—	DL+4.5m	—	656.7m	・施設の沈下、消波ブロック飛散

外郭施設－補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	浄土ヶ浜地区_防波堤	昭和48年度	88.5m	ケーソン式	—	+4.50m	—	88.5m	・沈下(沈下量43cm)、洗掘
2	出崎地区_防波堤取付護岸	平成7年度	14.0m	ブロック張式	—	+2.50m	—	14.0m	・沈下(沈下量31cm)、洗掘、ブロック倒壊
3	鎌ヶ崎地区_護岸(1)(2)	—	63.3m	ブロック積式	—	—	—	63.3m	・沈下((1)沈下量47cm)((2)沈下量57cm)、洗掘、倒壊
4	開伊川_導流堤	—	133.1m	ブロック積式	—	+3.30m	—	133.1m	・沈下(沈下量99cm)、洗掘、倒壊
5	神林地区_護岸	—	84.5m	ブロック積式	—	+2.50m	—	84.5m	・沈下(沈下量64cm)、洗掘、ブロック倒壊
6	神林地区_埋立護岸	平成10年度	148.4m	直立消波ブロック積式	—	+2.40m	—	148.4m	・沈下(沈下量50cm)、洗掘、ブロック倒壊
7	神林地区_南防波堤	平成10年度	111.6m	直立消波ケーソン式	—	+5.00m	—	111.6m	・沈下(沈下量59cm)、洗掘
8	神林地区_護岸防波	平成10年度	113.6m	直立消波ブロック積式	—	+4.00m	—	113.6m	・沈下(沈下量51cm)、洗掘、ブロック倒壊
9	神林地区_防波堤	昭和50年度	30.8m	消波ブロック積式ケーソン式	—	+3.80m	—	30.8m	・沈下(沈下量53cm)、洗掘、消波ブロック消失
10	高浜地区_護岸(2)	昭和52年度	239.1m	ブロック積式	—	+3.50m	—	239.1m	・沈下(沈下量111cm)、洗掘、ブロック倒壊
11	高浜地区_護岸(1)	昭和54年度	200.2m	ブロック積式	—	+3.50m	—	200.2m	・沈下(沈下量83cm)、洗掘、ブロック倒壊
12	高浜地区_防波堤(北)	昭和54年度	250.2m	直立消波ブロック積式	—	+3.00m	—	250.2m	・沈下(沈下量83cm)、洗掘、ブロック倒壊
13	高浜地区_防波堤波除(1)	平成12年度	240.0m	直立消波ブロック積式	—	+2.00m	—	240.0m	・沈下(沈下量57cm)、洗掘、ブロック倒壊
14	高浜地区_防波堤波除(2)	平成12年度	100.0m	直立消波ブロック積式	—	+2.00m	—	100.0m	・沈下(沈下量55cm)、洗掘、ブロック倒壊
15	高浜地区_防波堤(南)	平成12年度	200.0m	直立消波ブロック積式	—	+3.90m	—	200.0m	・沈下(沈下量89cm)、洗掘、ブロック倒壊
16	高浜地区_護岸(防波)	平成7年度	100.0m	直立消波ブロック積式	—	+3.90m	—	100.0m	・沈下(沈下量89cm)、洗掘、ブロック倒壊
17	高浜地区_護岸(3)-2 高浜地区_護岸(3)-1	平成10年度	266.4m	控え杭矢板式	—	+2.50m	—	266.4m	・沈下(沈下量71cm)
			86.0m	ブロック積式	—	+2.50m	—	86.0m	

係留施設－直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	出崎地区_-3.0m物揚場	—	328.0m	矢板式	-3.0m	DL+2.00m	0.10	328.0m	・前面洗掘、矢板の損傷、施設の沈下
2	出崎地区_-4.0m物揚場	—	75.2m	重力式	-4.0m	DL+2.50m	0.10	75.2m	・施設の沈下
3	出崎地区_-1万屯岸壁	—	175.1m	重力式	-9.0m	DL+2.50m	0.10	175.1m	・施設の沈下
4	出崎地区_-7.3m岸壁	—	218.7m	重力式	-7.3m	DL+2.50m	0.10	218.7m	・施設の沈下
5	藤原地区_第二埠頭-10.0m岸壁	—	800.24m	矢板式	-10.0m	DL+2.49m	0.10	800.24m	・施設の沈下、上部工の崩壊、エプロンの損傷
6	藤原地区_第一埠頭-12.0m岸壁	—	240.0m	矢板式	-12.0m	DL+2.37m	0.10	240.0m	・施設の沈下、エプロンのクラック
7	藤原地区_第二埠頭-7.5m岸壁	—	260.11m	矢板式	-7.5m	DL+2.18m	0.05	260.11m	・施設の沈下、エプロンのクラック、車止めの損傷
8	藤原地区_第一埠頭-7.5m岸壁	—	260.11m	矢板式	-7.5m	DL+2.49m	0.05	260.11m	・施設の沈下、エプロンのクラック、車止めの損傷
9	藤原地区_-3.0m物揚場	—	145.0m	ブロック式	-3.0m	DL+2.50m	0.05	145.0m	・施設の沈下、エプロンのクラック、車止めの損傷
10	藤原地区_第一埠頭-4.5m岸壁	—	192.4m	矢板式	-4.5m	DL+2.51m	0.05	192.4m	・施設の沈下、エプロンのクラック、車止めの損傷
11	鎌ヶ崎地区_-5.0m岸壁	—	562.6m	A区：積構式 B区：矢板式	-5.0m	DL+2.30m	0.05	562.6m	・施設の沈下、エプロンのクラック、車止めの損傷
12	木材港_物揚場(-2m)	—	230.05m	ブロック式	-2.0m	DL+2.00m	0.10	230.05m	・本体ブロックの倒壊、マウンドの洗掘、施設の沈下

係留施設－補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	浄土ヶ浜地区_-2.0m積構	昭和49年度	25.4m	ブロック積式	-2.00m	+2.30m	—	25.4m	・沈下(沈下量68cm)、洗掘、傾斜
2	浄土ヶ浜地区_-2.0m物揚場	昭和49年度	40.2m	ブロック積式	-2.00m	+2.30m	—	40.2m	・沈下(沈下量49cm)、洗掘、傾斜
3	日立浜地区_船揚場(2)	平成15年度	100.0m	ブロック張式	-0.50m	+2.50m	—	100.0m	・沈下(沈下量46cm)、洗掘、ブロック散乱
4	日立浜地区_-4.5m岸壁(2)	平成 8年度	120.0m	ブロック積式	-4.50m	+2.50m	—	120.0m	・沈下(沈下量66cm)、洗掘、傾斜
5	日立浜地区_-4.5m岸壁(1)	昭和48年度	120.3m	ブロック積式	-4.50m	+2.50m	—	120.3m	・沈下(沈下量65cm)、洗掘、傾斜
6	日立浜地区_-4.5m物揚場	昭和61年度	80.0m	直立消波ブロック積式	-2.00m	+2.00m	—	80.0m	・沈下(沈下量60cm)、洗掘、傾斜
7	日立浜地区_船揚場(1)	昭和59年度	237.0m	ブロック張式	-1.00m	+2.50m	—	237.0m	・沈下(沈下量49cm)
8	開伊川_-3.0m物揚場	昭和63年度	727.7m	矢板式	-3.00m	+2.30m	—	727.7m	・沈下(沈下量52cm)、洗掘、傾斜
9	開伊川_-1.5m物揚場	昭和12年度	294.8m	ブロック積式	-1.50m	+2.10m	—	294.8m	・沈下(沈下量29cm)、洗掘、ブロック抜出し
10	藤原地区_船揚場	昭和51年度	50.0m	ブロック張式	-1.00m	+2.50m	—	50.0m	・沈下(沈下量50cm)
11	木材港_船揚場	不明	130.0m	ブロック張式	—	+2.50m	—	130.0m	・沈下(沈下量45cm)、洗掘、ブロック抜出し
12	神林地区_東船揚場	平成10年度	40.0m	ブロック張式	—	—	—	40.0m	・沈下(沈下量50cm)、洗掘、ブロック散乱
13	神林地区_浮桟橋	平成10年度	50.0m	アルミ製浮桟橋	—	WL+0.3	—	50.0m	・係留杭沈下(沈下量50cm)、浮桟橋消失
14	神林地区_防波取付-2.0m物揚場	昭和57年度	181.0m	直立消波ブロック積式	-2.00m	+2.00m	—	181.0m	・沈下(沈下量55cm)、洗掘
15	神林地区_-2.0m物揚場	昭和44年度	55.1m	ブロック積式	-2.00m	+2.20m	—	55.1m	・沈下(沈下量55cm)、傾斜

16	神林地区_船揚場	昭和44年度	50.0m	ブロック張式	±0.00	+2.50m	—	50.0m	・沈下(沈下量55cm)
17	高浜地区_-2.0m物揚場(2)	平成11年度	200.0m	徳立湧波ブロック積式	-2.00m	+2.00m	—	200.0m	・沈下(沈下量83cm)、洗掘、ブロック倒壊
18	高浜地区_-4.0m物揚場(1)	昭和54年度	185.0m	控え杭矢板式	-4.00m	+2.30m	—	185.0m	・沈下(沈下量52cm)、洗掘
19	高浜地区_-2.0m物揚場(1)	昭和52年度	200.3m	ブロック積式	-2.00m	+2.30m	—	200.3m	・沈下(沈下量59cm)、洗掘、ブロック倒壊
20	高浜地区_船揚場(1)	昭和52年度	200.0m	ブロック張式	±0.00	+2.50m	—	200.0m	・沈下(沈下量57cm)、洗掘、ブロック散乱
21	高浜地区_-2.0m物揚場(4)	平成11年度	60.0m	ブロック積式	-2.00m	+2.00m	—	60.0m	・沈下(沈下量57cm)、洗掘、ブロック倒壊
22	高浜地区_船揚場(2)	平成4年度	150.0m	ブロック張式	±0.00	+2.50m	—	150.0m	・沈下(沈下量57cm)、洗掘、ブロック散乱
23	高浜地区_-2.0m物揚場(3)	平成11年度	140.0m	ブロック積式	-2.00m	+2.00m	—	140.0m	・沈下(沈下量53cm)、洗掘、ブロック倒壊
24	高浜地区_-4.0m物揚場(2)	平成12年度	200.4m	控え杭矢板式	-4.00m	+2.30m	—	200.4m	・沈下(沈下量68cm)

#### その他施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	藤原地区_防潮堤(1)	—	—	—	DL.+1.02m	DL.+9.27m	0.15	—	・沈下(沈下量48cm)
2	藤原地区_防潮堤(2)	—	—	—	DL.+3.71m	DL.+9.27m	0.15	—	・沈下(沈下量49cm)
3	藤原地区_防潮堤(3)	—	—	—	DL.+3.70m	DL.+9.27m	0.15	—	・沈下(沈下量50cm)
4	藤原地区_防潮堤(4)	—	—	—	DL.+3.17m	DL.+9.27m	0.15	—	・沈下(沈下量53cm)
5	藤原地区_防潮堤(5)	—	—	—	DL.+3.20m	DL.+9.27m	0.15	—	・沈下(沈下量50cm)
6	磯鷺地区_防潮堤(1)	—	—	—	DL.+5.29m	DL.+9.27m	0.15	—	・沈下(沈下量51cm)
7	磯鷺地区_防潮堤(2)	—	—	—	DL.+3.96m	DL.+9.27m	0.15	—	・沈下(沈下量44cm)
8	磯鷺地区_防潮堤(3)	—	—	—	DL.+4.18m	DL.+9.27m	0.15	—	・沈下(沈下量46cm)
9	磯鷺地区_防潮堤(4)	—	—	—	DL.+4.71m	DL.+9.27m	0.15	—	・沈下(沈下量49cm)
10	磯鷺地区_防潮堤(5)	—	—	—	DL.+4.74m	DL.+9.27m	0.15	—	・沈下(沈下量46cm)
11	高浜地区_防潮堤(1)	—	—	—	DL.+2.05m	DL.+9.27m	0.10	—	・沈下(沈下量45cm)
12	高浜地区_防潮堤(2)	—	—	—	DL.+1.99m	DL.+9.27m	0.10	—	・沈下(沈下量51cm)、 前面の基礎の洗掘、背面補生土の流出
13	高浜地区_防潮堤(3)	—	—	—	DL.+2.05m	DL.+9.27m	0.10	—	・沈下(沈下量45cm)
14	藤原地区_陸開2号	—	—	—	—	DL.+9.27m	—	—	・沈下(沈下量47cm)
15	藤原地区_陸開1号	—	—	—	—	DL.+9.27m	—	—	・沈下(沈下量48cm)
16	藤原地区_陸開3号	—	—	—	—	DL.+9.27m	—	—	・沈下(沈下量45cm)
17	磯鷺地区_陸開	—	—	—	—	DL.+9.27m	—	—	・沈下(沈下量49cm)
18	高浜地区_陸開2号	—	—	—	—	DL.+9.27m	—	—	・沈下(沈下量44cm)

釜石港

外郭施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	湾口地区_湾口防波堤（北堤浅部）	平成18年	335.3m	RC矩形消波ケーソン	-10~-24m	+6.0m	0.15~0.25	241.9m	・22箇中開口部側6箇は健全，その他は倒壊，傾斜
	湾口地区_湾口防波堤（北堤深部）	平成14年	81.2m	RC矩形消波ケーソン	-24~-32m	+6.0m	0.20	60.8m	・3箇中1箇健全，その他は倒壊，傾斜
	湾口地区_湾口防波堤（北堤深部）	平成8年	573.5m	RC矩形消波ケーソン	-33.5~-63m	+6.0m	0.20~0.25	573.5m	・19箇中健全はなし，6箇倒壊，13箇傾斜
	湾口地区_湾口防波堤（開口部）	平成8年	300.0m	HB矩形ケーソン	-60m	-19.0m	0.20	300.0m	・13箇中12箇倒壊，1箇傾斜
	湾口地区_湾口防波堤（南堤深部）	平成10年	91.2m	RC矩形消波ケーソン	-63m	+6.0m	0.20	0.0	・3箇中3箇健全
	湾口地区_湾口防波堤（南堤深部）	平成15年	273.9m	RC矩形消波ケーソン	-55~-45m	+6.0m	0.20	120.9m	・16箇中開口部側7箇健全，1箇傾斜，8箇倒壊
	湾口地区_湾口防波堤（南堤浅部）	平成16年	91.8m	RC矩形消波ケーソン	-30.1~-13.1m	+6.0m	0.20	91.8m	・3箇中2箇倒壊

外郭施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	須賀地区_南防波堤	昭和13	265.0m	混成	D.L.-6.30	+3.50m	—	265.0m	・沈下（沈下量：100～130cm）
		昭和49					—		
		昭和49					—		
		昭和54					—		
2	須賀地区_大渡護岸	—	204.6	混成	—	+4.86m	—	198.68m	・沈下（沈下量：116.0～142.0cm）
3	須賀地区_埋立護岸	—	226.0	混成	—	+4.00m	—	226.0m	・沈下（沈下量：189.8～221.8cm）
4	須賀地区_護岸(防波)	—	150.1	重力式(ケソ)	—	+3.00m	—	150.1m	・沈下（沈下量：62～69.2cm）
5	須賀地区_護岸	—	31.6	重力式(ブロック)	—	+3.00m	—	31.6m	・(1)沈下（沈下量：81.8～100.0cm） ・(2)沈下（沈下量：94.7～100.0cm）

係留施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	須賀-7.5m岸壁	昭和45	130.0	たな式	-7.5m	+3.00m	—	130.0m	・(1)沈下（沈下量：99.8～109.3cm） ・(2)沈下（沈下量：110cm）
2	須賀-4.5m岸壁	平成2	120.0	重力式	-4.5m	—	—	120.0m	・(1)沈下（沈下量：90.1～114.2cm） ・(2)沈下（沈下量：69.4～91.1cm）
3	須賀-11.0m岸壁	平成18	190.1	重力式(ケソ)	-11.0m	+3.00m	—	190.1m	・(1)沈下（沈下量：68.9～73.6cm） ・(2)沈下（沈下量：94.7～103.8cm） ・(3)沈下（沈下量：66.9～68.9cm） ・(4)沈下（沈下量：72.4～73.8cm） ・(5)沈下（沈下量：68.0cm）
4	須賀-7.5m岸壁	平成18	130.0	重力式(ケソ)	-7.5m	+3.00m	—	130.0m	・標準部(A工区)：沈下（沈下量：61.7～75.4cm） ・標準部(B工区)：沈下（沈下量：69.4～78.4cm） ・取付部：沈下（沈下量：71.0～74.4cm）
5	須賀-4.5m棧橋	昭和57	120.0	杭式	-4.5m	+2.60m	—	75.05m	・沈下（沈下量：109cm）
6	須賀-1.5m物揚場	昭和10	100.0	重力式	-1.5(-1.3m)	+2.60m	—	100.0m	・沈下（沈下量：118.4～125.7cm）
7	須賀-2.0m物揚場	昭和10	50.0	重力式	-2.0(-1.6m)	+2.60m	—	50.0m	・(1)沈下（沈下量：125.7～143.0cm） ・(2)沈下（沈下量：76.0～143.0cm）
		昭和44	50.0	重力式	-2.0(-1.6m)	+2.60m	—	50.0m	
8	須賀-4.5m1号物揚場	昭和10	111.1	重力式	-4.0m	+2.60m	—	111.1m	・(1)沈下（沈下量：118.2～121.7cm） ・(2)沈下（沈下量：121.7～136.8cm） ・(3)沈下（沈下量：102.5～136.8cm） ・(4)沈下（沈下量：79.8～122.5cm）
		昭和45	20.0	重力式	-4.0m	+2.60m	—	20.0m	
		昭和45	40.6	矢板式	-4.0m	+2.60m	—	40.6m	
		昭和45	19.9	たな式	-4.0~-7.5m	+2.80m	—	19.9m	
9	須賀-4.5m2号物揚場	昭和50	526.9	矢板式	-4.0m	+2.60m	—	526.9m	・改良部，新設部：沈下（沈下量：77.7～127.8cm）
10	須賀-3.0m物揚場	平成2	91.5	重力式	-3.0m	—	—	91.5m	・沈下（沈下量：90.1～104.7cm）

臨港交通施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	須賀幹線臨港道路	—	472.89m					404.5m	・不陸（段差：30m~17m，不陸延長：334.9m区間） ・破損（排水施設：48.8m） ・倒壊（大型標識：1基，道路照明設備：7基） ・流出（集水枦蓋・側溝蓋：73枚）
2	東西1~3号線臨港道路	—	—					—	・沈下（沈下量：57~91cm）
3	南北1~12号線臨港道路	—	—					—	

その他施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	須賀防潮堤，須賀地陸間8~10号	昭和47~51年	—	—	T.P.+4.60m	—	—	227.7m	—
2	須賀防潮堤，須賀地陸間11~12号	昭和47~51年	—	—	T.P.+4.60m	—	—	324.7m	—
3	須賀防潮堤，須賀地陸間13~15号	昭和47~51年	—	—	T.P.+4.60m	—	—	329.2m	—

大船渡港

外郭施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	湾口防波堤（標準部）	S41	288.6m	ケーソン式混成堤	-35.0m	+5.0m	Kh=0.20	288.6m	・ケーソン及び基礎マウンドの流出
	湾口防波堤（堤頭部）	S41	200.0m	逆工型ブロック	-35.0m	-16.0m	Kh=0.15	200.0m	・堤体及び基礎マウンドの流出
	湾口防波堤	S41	249.0m	ケーソン式混成堤	-35.0m	+5.0m	Kh=0.20	249.0m	・ケーソン及び基礎マウンドの流出

外郭施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	赤土倉地区_北防波堤	昭和63年	165	重力式	-3.5m	+4.0m	kh=0.1	165	・沈下
2	赤土倉地区_南防波堤	平成17年	79.6	重力式	—	+3.5m	kh=0.1	79.6	・沈下
3	清水地区_防波堤	平成8年	108.5	杭式 重力式	—	+2.3m	kh=0.1	108.5	・沈下
4	永浜地区_防波堤	昭和45年	187.6	鋼管式 重力式	—	+3.0m	kh=0.1	187.6	・沈下
5	山口地区_防波堤①	平成元年	40	直立 混成	—	+2.0m	kh=0.1	40	・沈下
6	山口地区_防波堤②	昭和60年	64	鋼管杭式	—	+2.3m	kh=0.1	64	・沈下
7	野々田地区_護岸	—	39.6	直立	-3.5m	+2.2m	kh=0.1	39.6	・沈下
8	野々田地区_須崎防波堤	平成2年	60.7	鋼管杭式	—	+2.3m	kh=0.1	60.7	・沈下
9	野々田地区_防波堤	昭和62年	170	鋼管杭式	—	+2.8m	kh=0.1	170	・沈下
10	茶屋前地区_-9.0m取付護岸	—	97.2	直立	—	+2.1m	kh=0.1	97.2	・沈下

保留施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	野々田地区_-13m岸壁	—	270.0m	桧橋式（斜杭併用）	-13.0m	+3.0m	kh=0.15	270.0m	・地殻変動による桧橋の沈下
2	野々田地区_-7.5m岸壁	—	260.0m	桧橋式	-7.5m	+3.0m	kh=0.15	260.0m	・地殻変動による桧橋の沈下
3	永浜地区_-13m岸壁	—	290.0m	桧橋式（斜杭併用）	-13.0m	+3.0m	—	290.0m	・沈下

保留施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	赤土倉地区_-2.0m 2号物揚場	平成2年	85.89m	重力式	-2.0m	+2.3m	kh=0.1	85.89m	・沈下
2	清水地区_船揚場（2）	平成7年	50.0m	斜路式	-2.0m	+2.3m	kh=0.1	50.0m	・沈下
3	清水地区_-2.0m物揚場	平成7年	289.43m	重力式	-4.0m	+2.0m	kh=0.1	289.43m	・沈下
4	清水地区_物揚場（-4.0m）	昭和62年	90.0m	重力式	-4.0m	+2.0m	kh=0.1	90.0m	・沈下
5	清水地区_船揚場	昭和61年	40.0m	斜路式	-4.0m	+2.5m	kh=0.1	40.0m	・沈下
6	永浜地区_-2.0m物揚場	昭和45年	100.0m	重力式	-2.0m	+2.5m	kh=0.1	100.0m	・沈下
7	永浜地区_2号物揚場（-2.0m）	平成13年	125.0m	控え直杭式鋼矢板	-2.0m	+2.0m	kh=0.1	125.0m	・沈下
8	山口地区_南物揚場（-2.0m）	平成元年	426.7m	重力式	-2.0m	+2.0m	kh=0.1	426.7m	・沈下
9	山口地区_物揚場（-2.0m）	昭和60年	142.0m	重力式	-2.0m	+2.0m	kh=0.1	142.0m	・沈下
10	山口地区_さん橋（-2.0m）	昭和60年	31.5m	直杭式	-2.0m	+2.0m	kh=0.1	31.5m	・沈下
11	山口地区_船揚場	昭和59年	30.0m	斜路式	-2.0m	+2.5m	kh=0.1	30.0m	・沈下
12	野々田地区_-3m物揚場	昭和59年	87.0m	重力式 矢板式	-3.0m	+2.2m	kh=0.1	87.0m	・沈下
13	野々田地区_（-4.5m）岸壁	昭和63年	163.5m	重力式 矢板式	-4.5m	+2.5m	kh=0.15	163.5m	・沈下
14	茶屋前地区_-4.0m物揚場	昭和30年	197.9m	重力式	-4.0m	+2.2m	kh=0.1	197.9m	・沈下
15	茶屋前地区_-3.0m物揚場	昭和33年	371.0m	重力式	-3.0m	+2.3m	kh=0.1	371.0m	・沈下
16	茶屋前地区_-6.0m岸壁	昭和48年	105.0m	桧橋	-6.0m	+2.8m	kh=0.1	105.0m	・沈下
17	茶屋前地区_-6.0m岸壁	昭和30年	105.0m	桧橋	-6.0m	+2.4m	kh=0.1	105.0m	・沈下
18	茶屋前地区_-9.0m（右側、左側）岸	昭和50年	150.0m	桧橋	-9.0m	+3.0m	kh=0.1	150.0m	・沈下
19	茶屋前地区_-9.0m岸壁	昭和35年	180.6m	たな式	-9.0m	+3.0m	kh=0.1	180.6m	・沈下



気仙沼港

保留施設—補助分

No.	被災状況	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	朝日地区_-4.5m 1号岸壁	昭和42年	60m	控え矢板	-4.5m	+2.80m	—	—	—
	朝日地区_-4.5m 2号岸壁	昭和46年	60m	控え矢板	-4.5m		—	—	—
	朝日地区_-4.5m 3号岸壁	昭和46年	60m	控え矢板	-4.5m		—	—	—
2	朝日地区_-7.5m 1号岸壁	昭和46年	130m	控え矢板	-7.5m	+3.00m	—	—	—
	朝日地区_-7.5m 2号岸壁	昭和46年	130m	控え矢板	-7.5m		—	—	—
3	朝日地区_-7.5m 3号岸壁	昭和60年	130m	控え矢板	-7.5m	+3.00m	—	—	—

臨港交通施設

No.	被災状況	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	朝日大川路線A 朝日大川路線B	—	1,538m					1,538m	・舗装陥没、側溝破損
2	埠頭西1号線	—	84m					84.0m	・舗装陥没、側溝破損
3	埠頭西2号線	—	34m					34.0m	・舗装陥没、側溝破損
4	埠頭西3号線	—	35m					35.0m	・舗装陥没、側溝破損
5	埠頭西路線	—	87m					87.0m	・舗装陥没、側溝破損
6	埠頭中央路線	—	178m					178.0m	・舗装陥没、側溝破損
7	埠頭東路線	—	239m					235.8m	・舗装陥没、側溝破損
8	宮下朝日路線	—	242m					240.0m	・舗装陥没、側溝破損

その他施設

No.	被災状況	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	朝日地区_胸壁(1)	—	340.0m	—	—	—	0.10	338.3m	—
	朝日地区_胸壁(2)	—	355.7m	—	—	—		355.7m	—
2	朝日地区_護岸(1)	—	363.7m	—	—	—	0.10	363.7m	—
	朝日地区_護岸(2)	—	539.1m	—	—	—		539.1m	—
3	小々汐地区_護岸	—	515.2m	—	—	—	0.10	515.2m	—
4	梶ヶ浦地区_護岸	—	366.1m	—	—	—	0.10	366.1m	—

女川港

外郭施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	石浜地区(1)_波除堤(A)	—	153.2m	—	—	—	—	152.9m	・地盤が約0.76m沈下
	石浜地区(1)_波除堤(B)	—	80.0m	—	—	—	—	79.0m	・地盤が約0.76m沈下
2	石浜地区(1)_護岸(防波)	—	73.4m	—	—	—	—	73.4m	・堤体が倒壊、流出・地盤が約0.75m沈下
3	石浜地区(3)_取付護岸	—	159.1m	—	—	—	—	159.1m	・護岸本体工がほとんど倒壊、流失
4	石浜地区(3)_水路護岸	—	55.0m	—	—	—	—	55.0m	・護岸本体工がほとんど倒壊、流失
5	石浜地区(3)_道路護岸	—	8.2m	—	—	—	—	8.2m	・護岸本体工がほとんど倒壊、流失
6	石浜地区(3)_崎山防波堤	—	23.6m	—	—	—	—	23.6m	・地盤が約0.8m~1.0m程度沈下
7	石浜地区(3)_崎山取付護岸	—	72.7m	—	—	—	—	72.7m	・地盤が約0.8m程度沈下
8	高白地区_防波堤	—	99.0m	—	—	—	—	94.7m	・地盤が護岸部で約0.88m、防波堤基部で約0.95m、防波堤中間部で約0.85m沈下・消波ブロックが沈下
9	高白地区_防波堤A	—	30.0m	—	—	—	—	30.0m	・地盤が約1.07m沈下・消波ブロックが沈下
10	高白地区_防波堤B	—	80.0m	—	—	—	—	80.0m	・地盤がケーソン部で約1.04m、ブロック積りで約1.02m沈下・消波ブロックが沈下
11	高白地区_-1.5m物揚場取付護岸	—	18.0m	—	—	—	—	18.0m	・地盤が約1.0m沈下・堤体は前方に2.9°程度傾斜し、上部工と舗装面に段差
12	横浦地区_防波堤	—	86.0m	—	—	—	—	86.0m	・地盤が防波堤先端部で約1.32m、防波堤基部で約1.29m、護岸部で約1.29m沈下
13	横浦地区_防波堤A	—	260.0m	—	—	—	—	260.0m	・地盤が先端部で約1.49m、中間部で約1.51m、基部で約1.37m沈下・消波ブロックが沈下
14	横浦地区_防波堤B	—	50.0m	—	—	—	—	50.0m	・地盤がケーソン部で約1.36m、斜堤部で約1.32m沈下・堤頭部ケーソンが倒壊
15	横浦地区_物揚場護岸	—	55.0m	—	—	—	—	46.8m	・地盤が約1.33m沈下(小口止部)・地盤が約1.20m沈下(水路部)
16	横浦地区_防波護岸	—	58.0m	—	—	—	—	52.7m	・地盤が約1.26m沈下・消波ブロックが沈下
17	大石原地区_防波堤A	—	81.0m	—	—	—	—	81.0m	・地盤が約1m沈下
18	大石原地区_防波堤B	—	60.0m	—	—	—	—	60.0m	・地盤が約1.07m沈下
19	大石原地区_護岸	—	25.0m	—	—	—	—	20.4m	・地盤が約1.02m沈下
20	大石原地区_物揚場護岸	—	235.0m	—	—	—	—	130.5m	・地盤が約1m沈下

保留施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	石浜地区(1)_物揚場(-2.0m)	—	100.5m	—	—	—	—	100.5m	・標準部の堤体は、前方に3.6°程度傾斜し、上部工と舗装面に段差・取付部の堤体は前方に3.1°程度傾斜し、上部工と舗装面に段差・地盤が約0.9m沈下・取付部背後が陥没し、エプロン舗装が流出
2	石浜地区(2)_岸壁(-7.5m)	—	151.8m	—	—	—	—	151.7m	・堤体は前方に0.5°~0.9°程度の傾斜・上部工と舗装面に段差・地盤が約1.24m沈下
3	石浜地区(2)_岸壁(-4.5m)	—	70.4m	—	—	—	—	48.3m	・堤体は前方に2.9°~3.6°程度の傾斜・上部工と舗装面に段差・地盤が約1.29m沈下
4	石浜地区(2)_物揚場(-4.0m)	—	120.0m	—	—	—	—	120.0m	・堤体は前方に3.5°~5.0°程度の傾斜・上部工と舗装面に段差・地盤が約1.04m沈下
5	石浜地区(2)_碼頭3,000t岸壁	—	172.0m	—	—	—	—	172.0m	・堤体は前方に2.1°程度の傾斜・上部工と舗装面に段差・地盤が約0.65m沈下
6	石浜地区(2)_物揚場(-3.5m)	—	152.1m	—	—	—	—	125.5m	・堤体が倒壊、流出・物揚場と取付部は堤体が10°程度傾斜・地盤が約0.72m沈下
7	石浜地区(3)_船揚場	—	26.9m	—	—	—	—	26.9m	・斜路本体工がほとんど倒壊、流失
8	石浜地区(3)_物揚場(-2.0m)	—	79.6m	—	—	—	—	79.6m	・本体工の一部が倒壊、流出・堤体は、5~10°程度の傾斜し、上部工と舗装面に段差・地盤が約0.8m程度沈下
9	石浜地区(3)_物揚場	—	61.7m	—	—	—	—	61.7m	・堤体は、前方に2.9°程度の傾斜し、上部工と舗装面に段差・地盤が約0.8m程度沈下
10	石浜地区(3)_埠頭	—	59.3m	—	—	—	—	59.3m	・堤体は、前方に2.9°程度の傾斜し、上部工と舗装面に段差・地盤が約0.7m程度沈下
11	石浜地区(3)_-1.0m物揚場	—	35.1m	—	—	—	—	35.1m	・堤体は前方に2°程度傾斜・地盤が約0.8m程度沈下
12	高白地区_船着場(1)	—	30.0m	—	—	—	—	30.0m	・地盤が約0.96m沈下
13	高白地区_船着場(2)	—	31.0m	—	—	—	—	29.6m	・地盤が約0.84m沈下
14	高白地区_-1.5m物揚場(1)	—	60.0m	—	—	—	—	60.0m	・地盤が約1.02m沈下・堤体は前方に2.8°程度傾斜し、上部工と舗装面に段差
15	高白地区_-1.5m物揚場(2)	—	50.0m	—	—	—	—	50.0m	・地盤が約1.07m沈下・堤体は前方に2.9°程度傾斜し、上部工と舗装面に段差
16	横浦地区_-2.0m物揚場A	—	64.0m	—	—	—	—	64.0m	・地盤が約1.20m沈下・堤体は前方に1.7°程度傾斜し、上部工と舗装面に段差
17	横浦地区_-2.0m物揚場B	—	205.0m	—	—	—	—	199.6m	・地盤が約1.25m沈下・堤体は前方に2.9°程度傾斜し、上部工と舗装面に段差
18	横浦地区_船着場	—	41.0m	—	—	—	—	40.7m	・地盤が約1.29m沈下
19	大石原地区_物揚場(-3.5m)	—	31.0m	—	—	—	—	31.0m	・地盤が約1.08m沈下・一部区間で上部工のラックが倒壊・消波ブロックが沈下
20	大石原地区_物揚場(-1.5m)	—	61.0m	—	—	—	—	60.5m	・地盤が約0.95m沈下・堤体は前方に2.3°程度傾斜し、上部工と舗装面に段差
21	大石原地区_物揚場(-2.0m)	—	70.0m	—	—	—	—	70.0m	・地盤が約0.88m沈下
22	大石原地区_船着場	—	41.0m	—	—	—	—	40.2m	・地盤が約0.93m沈下

臨港交通施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	石浜地区(1)_臨港道路	—	—	—	—	—	—	99.3m	—
2	女川臨港道路	—	—	—	—	—	—	346.0m	—
3	石浜1号臨港道路	—	—	—	—	—	—	121.2m	—
4	石浜2号臨港道路	—	—	—	—	—	—	110.5m	—
5	石浜荷捌地1号道路	—	—	—	—	—	—	24.2m	—

6	石浜荷捌地2号道路	—	/	/	/	/	/	24.9m	—
7	石浜地区(-3.5m)_物揚場取付道路	—	/	/	/	/	/	117.8m	—
8	高城臨港道路	—	/	/	/	/	/	34.4m	—
9	横浦臨港道路	—	/	/	/	/	/	253.4m	—
10	大石原臨港道路(1)	—	/	/	/	/	/	66.5m	—
11	大石原臨港道路(2)	—	/	/	/	/	/	66.5m	—

**その他施設**

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	高白_防潮壁	—	—	—	—	—	—	238.0m	・地盤が約0.85m沈下
2	横浦_防潮壁	—	—	—	—	—	—	129.0m	・地盤が約1.2m沈下
3	横浦_防潮堤	—	—	—	—	—	—	90.0m	・堤体のほとんどが倒壊, 流出
4	横浦_1号水門	—	—	—	—	—	—	3.0m	・ラック棒, ラックカバー損傷
5	横浦_2号水門	—	—	—	—	—	—	3.0m	・ラック棒, ラックカバー破損
6	大石原_防潮堤	—	—	—	—	—	—	157.0m	・地盤が約0.87m沈下
7	大石原_水門	—	—	—	—	—	—	2.0m	・防護柵が大きく変形

石巻港

外郭施設－直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	雲雀野地区_南防波堤	—	1,820.64m	消波ブロック被覆堤	-9.0~-11.5m	+4.2m(暫定)	—	1,820.64m	・防波堤の沈下、マウンド洗掘

外郭施設－補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	北俣頭岸壁 護岸F部	—	—	—	—	—	—	29.7m	—
2	防波堤(西)	—	600m	—	—	—	—	600m	—
3	東突堤	—	99.00m	—	—	—	—	99.00m	—
4	雲雀野地区_防波堤	—	—	—	—	—	—	1004.6m	—
5	大曲地区_波除堤(2)	—	—	—	—	—	—	165.5m	—
6	大曲地区_船溜波除堤	—	—	—	—	—	—	106.0m	—
7	大曲地区_波除堤(1)	—	—	—	—	—	—	160.0m	—
8	大曲地区_防波堤	—	—	—	—	—	—	48.23m	—

係留施設－直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	雲雀野地区_岸壁(-13m)(1)	—	260.8m	重力式	-13.0m	+3.2m	Kh=0.15	260.8m	・堤体の沈下、堤体の傾斜および法線のみだれ
2	雲雀野地区_岸壁(-13m)(2)	—	316.75m	重力式	-13.0m	+3.2m	Kh=0.15	316.75m	・堤体の沈下、堤体の傾斜および法線のみだれ

係留施設－補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	潮見地区_-4.5m岸壁	S.54	320.0m	控え組杭式鋼矢板	-4.5m	DL+3.0m	0.10	320.0m	—
2	南浜地区_-9.0m岸壁	S.43	165.00m	控え組杭式鋼矢板	-9.0m	DL+3.0m	0.10	165.0m	—
3	南浜地区_-7.5m岸壁	S.43	160.0m	控え組杭式鋼矢板	-7.5m	DL+3.0m	0.10	160.0m	—
4	中島地区_-4.5m岸壁	S.53	60.0m	鋼矢板	-4.5m	+3.0m	0.10	60.0m	・岸壁及び背後地が約1.0m沈下・岸壁法線の変位・背後エプロン及び裏込め材の吸出・流出・前面地盤面の洗掘
5	中島地区_-10.0m岸壁	S.46	370.0m	鋼管矢板	-10.0m	+3.0m	0.15	370.0m	・岸壁及び背後地が約1.0m沈下・岸壁法線の変位・エプロン部の不陸・防舷材及び車止めの損傷
6	中島地区_-5.5m岸壁	S.47	130.0m	鋼矢板	-5.5m	+3.0m	0.10	130.0m	・岸壁及び背後地が約1.0m沈下・岸壁法線の変位・エプロン部の不陸・防舷材及び車止めの損傷
7	大手地区_-5.5m岸壁	S.46	320.0m	鋼矢板	-5.5m	+3.0m	0.10	320.0m	・岸壁及び背後地が約1.0m沈下・岸壁法線の変位・エプロン部の不陸・エプロン及び車止めの損傷・防舷材及び車止めの損傷
8	大手地区_-7.5m岸壁	S.52	260.0m	棧橋	-7.5m	+3.0m	0.10	260.0m	・棧橋本体が1m程度沈下・上部工や本体鋼管杭が部分的に破損・直立消波護岸上部工が陸側に飛散・直立消波護岸部、背後のエプロン部が沈下
9	大曲地区_物揚場(1)(-2m)	—	—	—	—	—	—	198.0m	—
10	大曲地区_物揚場(2)(-2m)	—	—	—	—	—	—	350.0m	—
11	大曲地区_物揚場(-3m)	—	—	—	—	—	—	45.0m	—
12	大曲地区_物揚場(3)(-2m)	—	—	—	—	—	—	72.0m	—
13	大曲地区_船揚場	—	—	—	—	—	—	51.2m	—
14	内港地区_門脇大型棧橋(Ⅰ工区)	—	199.5m	—	—	—	—	209.0m	—
	内港地区_門脇大型棧橋(Ⅱ工区)	—	56.5m	—	—	—	—	56.5m	—
15	内港地区_浮棧橋	—	—	—	—	—	—	42.4m	—

水域施設－直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	雲雀野地区_航路・泊地(-13m)	—	—	—	-13m	—	—	—	・約6,800m <sup>3</sup> 埋没

水域施設－補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	西水路地区	—	—	—	-4.5m	—	—	—	—
2	内港航路	—	—	—	-2.0~-3.5m	—	—	—	—
3	大曲地区	—	—	—	-3.0m	—	—	—	—

臨港交通施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	臨港道路益北線	—	2,976.0m	—	—	—	—	2912.7m	・道路・歩道舗装流出等
2	臨港道路東1号線	—	1,010.0m	—	—	—	—	882.5m	・道路・歩道舗装流出等
3	臨港道路益中線	—	1,750.0m	—	—	—	—	882.5m	・車道及び歩道部舗装流出
4	臨港道路北一号线	—	333.0m	—	—	—	—	256.0m	・道路陥没、側溝流出
5	臨港道路北一の2号線	—	215.0m	—	—	—	—	230.2m	・道路陥没、側溝流出
6	臨港道路北一の3号線	—	215.0m	—	—	—	—	168.0m	・道路陥没、側溝流出
7	臨港道路北二号线	—	369.0m	—	—	—	—	363.1m	・道路陥没、側溝流出
8	臨港道路北四号线	—	150.0m	—	—	—	—	70.4m	・道路陥没、側溝流出

松島港

外郭施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	津ヶ崎護岸	—	277.5m	—	—	—	—	191.0m	・施設の沈下で最大71cm
2	東浜防砂堤	—	151.0m	—	—	—	—	110.1m	・施設全域で60～100cmの沈下
3	東浜防波堤	—	151.0m	—	—	—	—	151.0m	・施設の沈下で最大77cm

係留施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	松島海岸通り浮棧橋	平成7年度 平成9年度	80m×2m 40m×2m	浮体式係船岸	—	—	—	—	浮体本体：浮体法線の左右ずれ（約1m）あり・護岸側（80m）の舗装と連絡橋下部のコーナ保護材の損傷大・連絡橋、渡橋ローラー支承下部のコンクリート床版陥没、損傷大。連絡橋：渡橋の位置回転移動、舗装の部分的なひび割れ。橋台部：コンクリート損傷（ヒジ支承は現存）。
2	仙随（A）（B）浮棧橋	平成19年度 平成20年度	48m 48m	浮体式係船岸	—	—	—	—	・支承部の浸水・渡橋の水平方向のスレ・手摺の損傷・係留杭と丁Δ0-7-に4cm程度の隙間
3	東浜（A）船揚場・東浜（B）船揚場	—	102.25m 24.5m	—	—	—	—	—	・施設全域で約100cmの沈下 ・舗装コンクリートの割れ・スレ
4	東浜さん橋	—	106.7m	—	—	—	—	—	・施設全域で45～66cmの沈下
5	浪打浜船着き場	—	75.55m	—	—	—	—	—	・施設の沈下で最大52cm
6	浪打浜船揚場	—	10.0m	—	—	—	—	—	・施設全域で42cmの沈下
7	浪打浜浮さん橋	昭和元年度	24.0m×2m	浮体式係船岸	—	—	—	—	・浮体本体が転覆・渡橋が流出
8	松島突堤物揚場	—	24.5m	—	—	—	—	24.50m	・施設全域で51～57cmの沈下

仙台塩釜港

外郭施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	仙台港区_外港地区_北防波堤	—	325.0m	消費ブロック傾斜堤 消波ブロック被覆堤	-5.8m	+5.2m	—	325.0m	・防波堤の沈下・傾斜堤部消波工の散乱
2	仙台港区_外港地区_南防波堤	—	1,268.0m	ケーソン式混成堤	-14.0~-17.0m	+5.0m	—	1,268.0m	・防波堤の沈下・堤頭面における港内側のマウンド洗掘。根固工等の飛散
3	仙台港区_外港地区_沖防波堤	—	1,304.12m	消波ブロック被覆堤	-18.5~-19.0m	+5.4m	—	1,304.12m	・防波堤の沈下・堤体の移動(最大1.6m)・消波工の沈下
4	仙台港区_外港地区_C防波堤	—	92.24m	ケーソン式混成堤	-9.5~-17.0m	+5.0m	—	92.24m	・堤頭面の傾斜
5	仙台港区_中野地区_護岸Ⅱ	—	60.0m	矢板式	-8.5m	+3.1m	0.10	60.0m	・本体の沈下・上部工の欠落

外郭施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	塩釜港区_桂島橋ヶ浜防波堤	—	50.0m	—	—	DL+2.50m	—	50.0m	・施設全域で61~198cmの沈下・施設先端部で被覆石の散乱。流出
2	塩釜港区_小浜防波堤 (A)	—	177.80m	—	—	—	—	177.80m	・A-1工区：27~37cm沈下、A-2工区：30~37cm沈下・施設の一部倒壊・70tの抜け落ち
3	塩釜港区_小浜防波堤 (B)	—	346.0m	—	—	—	—	338.10m	・B-1工区：32~36cm沈下、B-2工区：34~40cm沈下、B-3工区：33~38cm沈下・施設の一部倒壊・70tの抜け落ち
4	塩釜港区_石浜南防波堤	—	90.0m	—	—	DL+2.80~+3.50m	—	—	・施設全域で102~158cmの沈下及び流出
5	塩釜港区_石浜北防波堤	—	64.7m	—	—	DL+3.50m	—	64.7m	・施設全域で90~107cmの沈下・目地の開き・No.2付近で「ハ」型倒壊
6	塩釜港区_代ヶ崎清水防波堤	—	—	—	—	DL+3.10m	—	338.0m	・施設全域で37~111cmの沈下
7	塩釜港区_代ヶ崎清水東側防波堤	—	—	—	—	DL+3.10m	—	161.8m	・施設全域で51~136cmの沈下・本工破壊
8	塩釜港区_代ヶ崎東防波堤	—	109.6m	—	—	DL+3.20m	—	109.6m	・施設全域で22~41cmの沈下・施設の倒壊
9	塩釜港区_代ヶ崎防波堤	—	51.4m	—	—	DL+3.20m	—	51.4m	・施設全域で49~62cmの沈下
10	塩釜港区_東心頭護岸	—	79.1m	—	—	DL+2.80m	—	79.1m	・施設全域で31~100cmの沈下・エプロンのクラック・上部工背後の陥没・本工クラック
11	塩釜港区_東宮浜西側防波堤	—	44.8m	—	—	DL+3.10m	—	44.8m	・施設全域で64~124cmの沈下
12	塩釜港区_東宮浜東防波堤	—	270.4m	—	—	DL+3.10m	—	—	・施設全域で63~67cmの沈下
13	塩釜港区_東宮浜西防波堤	—	100.1m	—	—	DL+3.10m	—	—	・施設全域で63~168cmの沈下・海側へ4°傾斜
14	塩釜港区_東宮浜東防波堤	—	53.8m	—	—	DL+3.10m	—	53.8m	・施設全域で63~168cmの沈下・海側へ4°傾斜
15	塩釜港区_要害 (A) 防波堤	—	25.0m	—	—	DL+3.00m	—	25.0m	・施設全域で44~46cmの沈下
16	塩釜港区_要害 (B) 防波堤	—	50.0m	—	—	DL+3.00m	—	50.0m	・施設全域で45~46cmの以下
17	仙台港区_新北防波堤	—	400.5m	—	—	DL+4.80~5.00m	—	—	・天端高が50~73cm程度沈下・10~50cm程度の法線の變形
18	仙台港区_高砂防波堤	—	—	—	—	DL+4.00m	—	—	・天端高が30~40cm沈下・1ブロックで11~18cmの法線のズレ
19	仙台港区_向洋心頭防波堤	—	169.5m	—	—	—	—	169.5m	・天端高が約50~90cm沈下・20cm程度の法線のズレ
20	仙台港区_南防波堤	—	—	—	—	—	—	397.7m	・天端高が30~40cm程度の沈下・3~5cmの法線のズレ
21	仙台港区_高砂心頭東B護岸	—	98.3m	—	—	—	—	98.3m	・天端高が80~100cm程度沈下・堤体が6°程度傾斜・法線が2.0m程度のズレ
22	仙台港区_北航路西C護岸	—	144.0m	—	—	—	—	144.0m	・天端高が約90cm沈下・海側へ約15°傾斜
23	仙台港区_雷神護岸Ⅰ	—	350.0m	—	—	—	—	—	・天端高が約40~50cm沈下・法線が最大で0.40m程度のズレ
24	仙台港区_向洋埠頭西護岸	—	80.0m	—	—	DL+4.00m	—	—	・天端高が約80cmの沈下

保留施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	仙台港区_向洋地区_岸壁 (-12m)	—	330.0m	鋼管矢板式控組杭	-12.6m	+4.2m	—	295.0m	・本体は平均0.6m沈下
2	仙台港区_向洋地区_岸壁 (-14m)	—	360.0m	鋼管矢板式控組杭	-15.5m	+4.2m	0.22	360.0m	・本体は平均0.6m沈下
3	仙台港区_中野地区_高松木村埠頭岸壁 (-12m)	—	270.0m	鋼管矢板式控組杭	-12.6m	+3.1m	0.09	270.0m	・法線部の沈下・エプロンの不同沈下(0.06~0.15m)
4	仙台港区_中野地区_岸壁 (-7.5m)	—	510.0m	直立消波ブロック式 鋼管矢板式控組杭	-7.9m	+3.1m	0.05~0.10	510.0m	・法線部の沈下・エプロンの不同沈下(0.06~0.15m)
5	仙台港区_中野地区_岸壁 (-12m)	—	270.0m	鋼管矢板式控組杭	-12.3m	+3.1m	0.10	270.0m	・法線部の沈下・エプロンの不同沈下(0.07m)
6	仙台港区_中野地区_岸壁 (-10m)	—	946.25m	鋼管矢板式控組杭 鋼管矢板式控組杭	-10.0~-10.3m	+3.1m	0.10	946.25m	・法線部の沈下・エプロンの不同沈下(0.07m)

保留施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	塩釜港区_小浜船揚場	—	60.2m	—	—	—	—	60.2m	・施設全域で約60cmの沈下
2	塩釜港区_小浜物揚場	—	398.7m	—	—	—	—	398.7m	・施設全域で70~93cmの沈下・傾斜角度：最大傾斜6°(陸側)・法線の出入り：最大45cm・本工の倒壊・エプロンのクラック
3	塩釜港区_石浜 (A) 物揚場	—	146.9m	—	—	—	—	146.9m	・施設全域で約70cmの以下・上部工の割れ、法線の出入り
4	塩釜港区_石浜 (B) 物揚場	—	25.1m	—	—	—	—	25.1m	・施設全域で72~86cmの沈下・上部工の割れ、法線の出入り
5	塩釜港区_代ヶ崎 (A) 物揚場	—	157.2m	—	—	—	—	157.2m	・施設全域で44~148cmの沈下・傾斜角度：最大傾斜5°・法線の出入り：最大で61cm・石積部倒壊・エプロンの陥没
6	塩釜港区_代ヶ崎 (B) 物揚場	—	77.9m	—	—	—	—	77.9m	・施設全域で41~43cm沈下・法線の出入り：最大9cm
7	塩釜港区_代ヶ崎 (C) 物揚場	—	53.9m	—	—	—	—	53.9m	・施設全域で39~63cmの沈下・法線の出入り：最大20cm
8	塩釜港区_代ヶ崎清水 (A) さん橋	—	80.0m	—	—	—	—	80.0m	・施設全域で45~47cmの以下
9	塩釜港区_代ヶ崎清水 (B) さん橋	—	113.0m	—	—	—	—	113.0m	・施設全域で42~47cmの沈下
10	塩釜港区_代ヶ崎清水 (B) 船揚場	—	60.0m	—	—	—	—	60.0m	・施設全域で約85cm程度の沈下・舗装コンクリートの割れ、スレ・止壁のスレ
11	塩釜港区_代ヶ崎船たまり (A) 船揚場	—	87.3m	—	—	—	—	87.3m	・施設全域で約60cm程度の沈下・舗装コンクリートの割れ、スレ・一部倒壊
12	塩釜港区_代ヶ崎船たまり (B) 船揚場	—	32.5m	—	—	—	—	32.5m	・施設全域で約100cm程度の沈下・舗装コンクリートの割れ、止壁のスレ
13	塩釜港区_代ヶ崎船たまり物揚場	—	78.9m	—	—	—	—	78.9m	・施設全域で75~143cmの沈下・傾斜角度：最大傾斜20°・法線の出入り：最大で2cm
14	塩釜港区_中の島さん橋	—	85.1m	—	—	—	—	85.1m	・施設全域で74~76cmの沈下
15	塩釜港区_中心頭港橋前物揚場	—	95.0m	—	—	—	—	95.0m	・施設全域で37~38cmの沈下
16	塩釜港区_中心頭西側さん橋	—	156.9m	—	—	—	—	156.9m	・施設全域で37~39cmの沈下
17	塩釜港区_中心頭東側さん橋	—	130.3m	—	—	—	—	130.3m	・施設全域で77~82cmの沈下
18	塩釜港区_中心頭東側岸壁	—	138.0m	—	—	—	—	138.0m	・施設全域で38~60cmの沈下
19	塩釜港区_追の浜船揚場	—	30.0m	—	—	—	—	30.0m	・施設全域で約100cmの沈下
20	塩釜港区_真山心頭1号岸壁	—	203.0m	—	—	—	—	203.0m	・施設全域で63~68cmの沈下・背後コンクリート版の沈下・基部側溝橋部の損傷、リベット杭の傾斜、杭頭とコンクリート杭の水平破断、杭頭部の腐食析出
21	塩釜港区_真山心頭2号岸壁	—	213.0m	—	—	—	—	213.0m	・施設全域で39~43cmの沈下

22	塩釜港区_真山心頭3号-4号さん橋	—	300.6m	—	—	—	—	300.6m	・施設全域で64～68cmの沈下
23	塩釜港区_東心頭・中心頭間物揚場	—	107.2m	—	—	—	—	107.2m	・施設全域で38～83cmの沈下
24	塩釜港区_東心頭岸壁	—	320.3m	—	—	—	—	320.3m	・施設全域で45～53cmの沈下・上部工、舗装下部の空洞化・法線の出入り
25	塩釜港区_東宮浜西側船揚場	—	42.3m	—	—	—	—	42.3m	・施設全域で約130cm程度の沈下・舗装コンクリートの割れ、スレ
26	塩釜港区_東宮浜東側船揚場	—	42.4m	—	—	—	—	42.4m	・施設全域で約100cm程度の沈下・舗装コンクリートの割れ、スレ
27	塩釜港区_東宮浜物揚場	—	330.4m	—	—	—	—	330.4m	・施設全域で68～135cmの沈下・海胸に最大7°の傾斜・最大で海側に1.3cm程度の出入り・上部工とエプロンの開き、エプロン舗装の龜裂
28	塩釜港区_要害浦物揚場	—	274.5m	—	—	—	—	274.5m	・施設全域で44～67cmの沈下・傾斜角度：海側へ2°・法線の出入り：全区域で10cm以上・上部工とエプロンの開き・エプロンの龜裂
29	塩釜港区_要害船揚場	—	54.0m	—	—	—	—	54.0m	・施設全域で約50cmの沈下
30	仙台港区_高砂船溜物揚場	—	325.4m	—	—	—	—	325.4m	・一部倒壊・その他、法線の変形がなく、沈下

水域施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	仙台港区_港外	—	—	—	-18～24m	—	—	—	—
2	仙台港区_港内	—	—	—	-4～18m	—	—	—	—

水域施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—

臨港交通施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—

その他施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	塩釜港区_代ヶ崎離岸堤	—	142.0m	—	—	—	—	142.0m	・施設全域で136～217cmの沈下
2	仙台港区_湊浜離岸堤（離岸堤1）	—	100.0m	—	—	—	—	100.0m	・施設全域の沈下・消波ブロックの端面欠損
	仙台港区_湊浜離岸堤（離岸堤2）	—	100.0m	—	—	—	—	100.0m	・施設全域の沈下・消波ブロックの端面欠損
	仙台港区_栄地区埋立護岸A工区	—	322.78m	—	—	—	—	322.78m	—
3	仙台港区_栄地区埋立護岸B工区	—	426.53m	—	—	—	—	426.53m	・天端高が約70～80cm沈下・A工区とB工区の隅角部付近の局所的なブロックで40cm程度の法線のスレ
	仙台港区_栄地区埋立護岸C工区	—	304.90m	—	—	—	—	304.90m	—

水域施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	仙台港区_港外	—	—	—	-18～24m	—	—	—	—
2	仙台港区_港内	—	—	—	-4～18m	—	—	—	—

水域施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—

臨港交通施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—

荷役施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	仙台港区_ガントリークレーン1号機	—	—	—	—	—	—	—	—
2	仙台港区_ガントリークレーン2号機	—	—	—	—	—	—	—	—
3	仙台港区_ガントリークレーン3号機	—	—	—	—	—	—	—	—
4	仙台港区_ガントリークレーン4号機	—	—	—	—	—	—	—	—

相馬港

外郭施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	沖波堤	—	2,730m	消波ブロック被覆堤	-13.5m~-15.8m	+5.0m~-5.5m	—	2,675.3m	・ケーソン及び基礎マウンドの流出
2	北防波堤	—	1,100m	ケーソン式混成堤	-10.25m~-10.6m	+3.8m~-4.2m	—	1,080m	・堤体沈下

外郭施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	防波堤(南)	—	1581.0m	混成式(ケーソン)	—	5.0m	—	143.7m	・ケーソン(堤防先端)が水平移動し、根固めブロックと消波ブロックが流出・ケーソン部分では根固め、消波ブロックの流失と上部工の破損、沈下や水平段差によるスレ
2	波除堤(南)	—	65.0m	混成式(ブロック)	—	2.5m	—	65.0m	・方塊ブロック下部の洗掘に伴い、方塊ブロックの沈下・流失
3	1号心頭護岸	—	86.0m	直立式(鋼矢板)	—	1.9m	—	75.5m	・自立式鋼矢板(軽鋼矢板)が基部の洗掘に伴い転倒および流失・斜面を被覆する場所打ちコンクリート張にもスレや全流出
4	2号心頭護岸	—	209.0m	直立式(ブロック)	—	3.0m	—	67.5m	・直立式護岸(ブロック・直立消波)が埠頭用地上に飛散し、裏埋土の吸出し、洗掘
5	4号心頭廃棄物処理護岸	—	817.5m	傾斜式(異形ブロック)	—	5.25m	—	639.6m	・消波ブロックが大きく飛散
6	5号埠頭西護岸	—	598.0m	混成式(ケーソン)	—	6.5m	—	592.4m	・水叩きアスファルト舗装(管理通路)および場所打水路の破損等
7	5号心頭北護岸	—	550.0m	混成式(ケーソン)	—	6.5m	—	550.0m	・ケーソンが若干水平移動・ケーソン背面(※接続部)に埋立土の吸出し

保留施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	防波堤(南)物揚場	—	155.0m	重力式(L型)ブロック	-3.0m	+2.5m	—	49.5m	・L型ブロック下部の洗掘に伴いL型ブロックの流失・本体(方塊ブロック)が沈下・崩落
2	1号埠頭船揚場	—	20.0m	その他(ケーソン・アーク)	-3.0m	+3.0m	—	20.0m	・基部の洗掘に伴い方塊ブロックが転倒および流失
3	ケーソンヤード斜路	—	21.0m	その他(ケーソン・アーク)	-5.5m	+3.15m	—	21.0m	・東側先端(海側)完全に崩壊(転倒および流失)・西側先端(海側)も下部の洗掘に伴い天端においてひび割れやスレ・基礎も洗掘により浮き上がった状態
4	1号心頭物揚場	—	100.0m	矢板式(鋼矢板)	-5.5m	+3.5m	—	100.0m	・矢板背後の埋立土が液状化を起し、舗装下部に空洞化
5	1号心頭岸壁	—	110.0m	矢板式(鋼矢板)	-5.5m	+3.5m	—	110.0m	・控え式鋼矢板が前面(海側)に傾斜・隅角部では裏埋土の吸出し、洗掘・目地の開き(20~35cm)
6	1号心頭岸壁	—	160.0m	矢板式(鋼矢板)	-7.5m	+3.5m	—	110.7m	・控え式鋼矢板が前面(海側)に傾斜・舗装の下部において最大で30cm空洞
7	1号心頭岸壁	—	—	矢板式(鋼矢板)	—	—	—	20.0m	・控え式鋼矢板が前面(海側)に傾斜・舗装の下部において最大で30cm空洞
8	1号心頭岸壁	—	260.0m	矢板式(鋼矢板)	-7.5m	+3.5m	—	260.0m	・隅角部では北側の鋼矢板が転倒・流出し、裏埋土の吸出し、洗掘・舗装の下部において最大で41cmの空洞
9	1号心頭岸壁	—	120.0m	重力式(ケーソン・アーク)	-5.5m	+3.5m	—	99.85m	・重力式岸壁(コンクリートブロック・直立消波)が前面(海側)に最大3°ほど傾斜・東側隅角部では鋼矢板が転倒・流出し、裏埋土の吸出し、洗掘・舗装の下部において最大で72.5cmの空洞
10	1号心頭岸壁	—	180.0m	重力式(ケーソン・アーク)	-5.5m	+3.5m	—	180.0m	・重力式岸壁(コンクリートブロック・直立消波)が前面(海側)に傾斜・舗装の下部において最大で54.5cmの空洞
11	2号心頭岸壁	—	100.0m	重力式(ケーソン・アーク)	-5.5m	+3.0m	—	99.6m	・舗装の下部において最大で55.5cmの空洞
12	2号心頭岸壁	—	347.0m	矢板式(鋼矢板)	-7.5m	+3.5m	—	347.0m	・控え式鋼矢板が前面(海側)に転倒し、裏埋土の吸出し、洗掘
13	2号心頭岸壁	—	280.0m	矢板式(鋼管矢板)	-12m	+3.5m	—	280.0m	・鋼管矢板背後の埋立土が液状化を起し、舗装下部に空洞化・矢板上部工背面に段差、舗装にひび割れや舗装の崩落、段差
14	第2船だまり物揚場	—	140.0m	矢板式(鋼管矢板)	-4.0m	+3.0m	—	140.0m	・鋼管矢板背後の埋立土が液状化を起し、舗装下部に空洞化・矢板上部工背面に段差、舗装にひび割れや舗装の崩落、段差
15	第2船だまり物揚場	—	270.0m	—	-4.0m	+3.0m	—	270.0m	—
16	第2船だまり物揚場	—	140.0m	—	-4.0m	+3.0m	—	140.0m	—
17	5号心頭岸壁	—	170.0m	直立式(ケーソン)	-5.5m	+4.0m	—	160.0m	・ケーソン基部の2ブロックで水平移動(ねじれ)等から、上部コンクリートにスレや開き

水域施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	本港地区_泊地(-14m)	—	—	—	-14m	—	—	—	・埋立土量約217,000m <sup>3</sup>

臨港交通施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	本港地区(臨港道路)1	—	1300.0m	アスファルト舗装				1050.0m	—
2	本港地区(臨港道路)2	—	505.5m	アスファルト舗装				505.5m	—
3	本港地区(臨港道路)3	—	40.0m	アスファルト舗装				36.9m	—
4	本港地区(臨港道路)4	—	175.0m	アスファルト舗装				104.5m	—
5	本港地区(臨港道路)5-①	—	39.0m	アスファルト舗装				39.0m	—
5	本港地区(臨港道路)5-②	—		アスファルト舗装					—
6	本港地区(臨港道路)6	—	340.0m	アスファルト舗装				311.2m	—
7	本港地区(臨港道路)7	—	554.9m	アスファルト舗装				554.9m	—
8	本港地区(臨港道路)8	—	813.0m	アスファルト舗装				813.0m	—
9	本港地区(臨港道路)9-①	—	414.0m	アスファルト舗装				98.4m	—
	本港地区(臨港道路)9-②	—		アスファルト舗装				93.2m	—
	本港地区(臨港道路)9-③	—		アスファルト舗装				54.7m	—
	本港地区(臨港道路)9-④	—		アスファルト舗装				105.2m	—



10	本港地区（臨港道路）10-①	—	180.3m	アスファルト舗装				85.9m	—
	本港地区（臨港道路）10-②	—		アスファルト舗装				94.4m	—
11	本港地区（臨港道路）11-①	—	517.0m	アスファルト舗装				290.2m	—
	本港地区（臨港道路）11-②	—		アスファルト舗装				102.0m	—
	本港地区（臨港道路）11-③	—		アスファルト舗装				124.8m	—
12	本港地区（臨港道路）12	—	100.0m	アスファルト舗装				100.0m	—
13	本港地区（臨港道路）13	—	170.0m	アスファルト舗装				111.3m	—
14	本港地区（臨港道路）14-①	—	187.0m	アスファルト舗装				93.2m	—
	本港地区（臨港道路）14-②	—		アスファルト舗装				53.8m	—
15	本港地区（臨港道路）15	—	102.9m	アスファルト舗装				102.9m	—
16	本港地区（臨港道路）16	—	95.8m	アスファルト舗装				95.8m	—
17	本港地区（臨港道路）17	—	149.0m	アスファルト舗装				149.0m	—
18	本港地区（臨港道路）18	—	160.0m	アスファルト舗装				160.0m	—
19	本港地区（臨港道路）19-①	—	410.7m	アスファルト舗装				380.4m	—
	本港地区（臨港道路）19-②	—		アスファルト舗装				30.3m	—
20	本港地区（臨港道路）20	—	282.0m	アスファルト舗装				282.0m	—
21	本港地区（臨港道路）21	—	155.0m	アスファルト舗装				155.0m	—
22	本港地区（臨港道路）22	—	1285.9m	アスファルト舗装				1255.3m	—

小名浜港

外郭施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	沖防波堤	—	2,359m	台形ケーソン 直立式ケーソン	-23.7~-29.35m	+6.0m	—	2,359.0m	・何れも、1m程度 全体的に沈下している。・消波ブロックも同様に沈下している。・ケーソン本体の水平方向の移動、傾斜は殆ど見られない。・マウンド部の洗掘は殆ど見られない。
2	西防波堤（第二）	—	2,050m	直立式ケーソン （前面消波有）	-16.5~-17.68m	+5.0m	—	2,050.0m	・何れも、1m程度 全体的に沈下している。・消波ブロックも同様に沈下している。・ケーソン本体の水平方向の移動、傾斜は殆ど見られない。・マウンド部の洗掘は殆ど見られない。
3	大剣ふ頭地区_先端護岸	—	89.71m	重力式	-8.0m	+3.5m	0.10	89.71m	・法線の沈下量は最大で0.77m。当該区間の最大沈下量は1.0m程度であり、ケーソン上部よりもケーソン背後のエプロン部で沈下量が大きくなる傾向
4	3号ふ頭地区_先端護岸	—	198.1m	鋼矢板式	-10.0m -7.0m -10.0m	+3.0m	0.15	198.1m	・法線の沈下量は最大で約1.1m。当該区間の最大沈下量は2.7m程度であり、ケーソン上部よりもケーソン背後のエプロン部で沈下量が大きくなる傾向・法線の沈下量は、東側へ向かうに従い大きくなる傾向
5	5・6号ふ頭地区_先端護岸	—	424.2m	直立消波ブロック式	-7.4~-12.1	+3.5m	0.10	424.2m	・法線の沈下量は最大で1.40m。当該区間の最大沈下量は3.1m程度であり、護岸部よりも護岸背後で沈下量が大きくなる傾向
6	7号ふ頭地区_先端護岸	—	196.3m	重力式（直立消波ケーソン）	-10.5~-13.0	+3.5m	0.10	196.3m	・岸壁ではケーソン背後地盤が沈下するとともに、ケーソンが前方へ滑動・傾斜する傾向

外郭施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	松下地区_三崎防波堤	—	671.9m	ケーソン	—	+5.0m	—	53.0m	—
2	松下地区_東防波堤	—	129.7m	ブロック	—	+3.3m	—	20.0m	・方塊7 07の崩壊
3	松下地区_第一西防波堤	—	3623.2m	ケーソン	—	+5.0m	—	18.8m	・本体工傾斜：港外側へ9°・岸港の洗掘・沈下：2.68m
4	漁港区_綱取護岸	—	47.3m	コンクリート単塊	—	+1.8m	—	18.5m	—
5	漁港区_小名川防波堤	—	178.4m	ブロック	—	+3.0m	—	107.75m	—
6	漁港区_栄町護岸（小名川）	—	178.4m	空石積	—	+3.0m	—	135.3m	—
7	1号ふ頭地区_1号埠頭先端護岸	—	45.0m	空石積	—	+0.0m	—	44.5m	—
8	1号ふ頭地区_第3護岸	—	118.0m	ブロック	—	+3.0m	—	39.2m	—
9	漁港区_1号埠頭船溜まり護岸	—	52.4m	鋼矢板	—	+3.0m	—	52.4m	—
10	漁港区_1号埠頭波除堤	—	194.5m	ケーソン	—	+3.0m	—	194.5m	—
11	2号ふ頭地区_第5護岸	—	190.5m	鋼管矢板	—	+3.0m	—	92.8m	・上部工の傾斜：1°・上部工目地の開き最大35cm
12	5号ふ頭地区_5号埠頭護岸	—	140.7m	鋼矢板	—	+3.5m	—	43.0m	—
13	藤原ふ頭地区_藤原A護岸	—	324.8m	ブロック	—	+3.5m	—	94.0m	—
14	大剣ふ頭地区_先端護岸	—	220.6m	ケーソン	—	+3.5m	—	25.0m	—
15	東港 A護岸	—	402.9m	鋼矢板	—	+3.5m	—	402.7m	—
16	東港 C護岸	—	636.8m	ケーソン	—	+3.5m	—	636.8m	—
17	東港 起債護岸	—	287.0m	ケーソン	—	+3.5m	—	287.0m	—

保留施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	藤原ふ頭地区_-12m岸壁	—	270.31m	重力式	-12.42m	+3.03m	0.10~0.12	239.0m	・本岸壁ではケーソン背後地盤が沈下するとともに、ケーソンが前方へ滑動・傾斜する傾向
2	藤原ふ頭地区_-10m岸壁	—	264.8m	重力式	-10.32m	+3.03m	0.05~0.15	264.8m	・本岸壁ではケーソン背後地盤が沈下するとともに、ケーソンが前方へ滑動・傾斜する傾向
3	藤原ふ頭地区_岸壁取付先端	—	140.0m	重力式	-8.32m	+2.99m	0.10	140.0m	・本岸壁ではケーソン背後地盤が沈下するとともに、ケーソンが前方へ滑動・傾斜する傾向
4	大剣ふ頭地区_-10m岸壁	—	370.05m	重力式	-10.42m	+3.06m	0.10	370.05m	・本岸壁ではケーソン背後地盤が沈下するとともに、ケーソンが前方へ滑動・傾斜する傾向。法線の沈下量は最大で0.63m。当該区間の最大沈下量は1.3m程度であり、ケーソン上部よりもケーソン背後のエプロン部で沈下量が大きくなる傾向。
5	大剣ふ頭地区_-7.5m岸壁	—	150.06m	重力式	-7.92m	+3.19m	0.10	150.06m	法線の沈下量は最大で0.58m。当該区間の最大沈下量は1.0m程度であり、ケーソン上部よりもケーソン背後のエプロン部の沈下量が大きくなる傾向
6	3号ふ頭地区_-10m岸壁	—	720.4m	矢板式 （控組杭）	-10.4~-11.5m	-2.70~-3.06m	0.15	720.0m	・法線の最大沈下量は1.4m程度。当該区間の最大沈下量も1.0m程度であり、法線の背後位置で大きな沈下を生じる傾向
7	3号ふ頭地区_-4.5岸壁	—	220.0m	矢板式（控逆Tブロック）	-5.7m	+3.00m	0.10	220.0m	・当該区間の最大沈下量は1.9m程度であり、法線から背後地盤にかけて概ね均一な沈下（1m程度）が発生しているとともに、前面矢板が前方へ傾斜
8	3号ふ頭地区_取付部	—	60m	矢板式（控逆Tブロック）	-10.0m	+3.00m	0.10	60m	・当該区間の最大沈下量は0.8m程度であり、前面矢板が前方へ傾斜する傾向
9	4号ふ頭地区_-10m岸壁	—	400.0m	矢板式、重力式	-10.32~-10.88m	+3.00m	0.15	400.0m	・当該区間の最大沈下量は1.0m程度である。岸壁法線の鉛直変位量の最大値は69cm、平均値は56cmであることから概ね均一な沈下傾向
10	4号ふ頭地区_-4.5m岸壁	—	90.0m	矢板式 （控組杭）	-4.95~-10.00m	+2.85m	0.15	90.0m	・本岸壁では背後地盤も含めて全体が均一的に沈下するとともに、区間全体の前面矢板がほぼ同程度前方へ傾斜する傾向
11	4号ふ頭地区_-6m岸壁・先端護岸	—	395.0m	重力式	-6.0m	+3.63m	0.15	395.0m	・裏埋土の液状化による沈下、ケーソンが前方へ滑動・傾斜
12	5・6号ふ頭地区_-14m岸壁	—	310.19m	重力式	-12.42m	+2.99m	0.10	310.19m	・本岸壁ではケーソン背後地盤が沈下するとともに、ケーソンが前方へ滑動・傾斜する傾向
13	5・6号ふ頭地区_-12m岸壁（耐震）	—	300m	重力式	-12.1m	+2.70m	0.20	300m	・法線の沈下量は最大で1.1m。当該区間の最大沈下量は2.2m程度であり、ケーソン上部よりもケーソン背後のエプロン部で沈下量が大きくなる傾向

14	7号心頭地区_-13m岸壁	—	558.06m	重力式	-13.55m	+3.13m	0.10	558.06m	・本岸壁ではケーソン背後地盤が沈下するとともに、ケーソンが前方へ滑動・傾斜する傾向
15	7号心頭地区_-10m岸壁	—	370.0m	重力式	-10.55m	+3.13m	0.10	370.0m	・本岸壁ではケーソン背後地盤が沈下するとともに、ケーソンが前方へ滑動・傾斜する傾向
16	7号心頭地区_-7.5m岸壁	—	160.13m	重力式	-8.05m	+3.18m	0.10	151.68m	・本岸壁ではケーソン背後地盤が沈下するとともに、ケーソンが前方へ滑動・傾斜する傾向

保留施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	松下地区_栄町岸壁(-5.0m)	—	200.0m	ブロック	-5.0m	+2.8m	—	195.7m	—
2	漁港区_網取第2船揚場	—	49.8m	ブロック	-2.0m	—	—	25.1m	—
3	松下地区_栄町岸壁(-5.0m)	—	163.0m	ブロック	-5.0m	+2.6m	—	151.3m	—
4	松下地区_栄町岸壁(-5.0m)	—	402.0m	鋼管杭	-5.0m	+2.85m	—	121.25m	—
5	漁港区_東棧橋岸壁(-5.0m)	—	170.0m	鋼管杭	-5.0m	+2.6m	—	20.1m	—
6	漁港区_-4.0m東棧橋物揚場	—	164.0m	鋼管杭棧橋	-4.0m	+2.6m	—	30.2m	—
7	漁港区_中央棧橋物揚場(-4.0m)	—	297.3m	鋼管杭棧橋	-4.0m	+2.85m	—	125.9m	—
8	漁港区_栄町-5.5m岸壁	—	277.0m	鋼管杭	-5.5m	+2.6m	—	260.0m	—
9	漁港区_栄町護岸(小名川)	—	—	—	—	—	—	135.3m	—
9	漁港区_栄町小船溜物揚場	—	165.7m	コンクリート単塊	-1.5m	+2.2m	—	85.95m	—
10	漁港区_辰巳町物揚場(-2.5m)	—	38.5m	L型ブロック	-2.5m	+1.6m	—	5.55m	—
11	漁港区_辰巳町物揚場(-2.5m)	—		L型ブロック	-2.5m	+1.6m	—	32.95m	—
12	1号心頭地区_1号埠頭-4.5m岸壁	—	250.0m	ケーソン	-4.5m	+3.0m	—	250.0m	—
13	漁港区_1号埠頭第1・2号岸壁	—	213.0m	ケーソン	-7.5m	+3.0m	—	213.0m	—
14	漁港区_1号埠頭-2.5m物揚場	—	137.7m	コンクリート単塊	-2.5m	+2.2m	—	137.7m	・本体工の傾斜1~3°・法線のはらみ：最大1.41m・堤体の沈下：-0.93m
15	漁港区_1号埠頭第3号岸壁	—	162.9m	鋼矢板	-9.0m	+2.9m	—	162.9m	—
16	2号心頭地区_2号埠頭3.4号岸壁	—	260.0m	鋼矢板	-7.5m	+3.0m~+3.5m	—	260.0m	—
17	2号心頭地区_2号埠頭5.6号岸壁	—	146.0m	鋼矢板	-4.5m	+3.0m	—	123.8m	—
18	5号心頭地区_5号埠頭1号岸壁(-4.5m)	—	170.2m	ブロック	-4.5m	+3.5m	—	170.2m	・岸壁の傾斜：最大2.0°・岸壁法線の出入：最大38cm・岸壁の沈下：最大43cm
19	6号心頭地区_6号埠頭2.3号岸壁	—	300.0m	ブロック	-7.5m	+3.5m	—	299.8m	—
20	7号心頭地区_7号埠頭-4.0m物揚場	—	200.0m	ブロック	-4.0m	+3.0m	—	200.0m	—
21	7号心頭地区_7号埠頭-4.0m物揚場	—	109.2m	ブロック	-4.0m	+3.0m	—	109.2m	—
22	藤原心頭地区_藤原埠頭-10m岸壁	—	185.0m	ケーソン	-10m	+3.5m	—	164.5m	—
23	藤原心頭地区_藤原埠頭第4岸壁	—	130.0m	ケーソン	-7.5m	+3.5m	—	128.7m	—
24	大剣心頭地区_大剣埠頭岸壁(-7.5m)	—	148.6m	ケーソン	-7.5m	+3.5m	—	139.8m	—
25	大剣心頭地区_大剣埠頭第4岸壁	—	550.8m	ケーソン	-7.5m	+3.5m	—	550.0m	—

茨城港

外郭施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	常陸那珂港区_北防波堤	—	500.0m	ケーソン式	-23.0m	+4.2m	0.10	500.0m	・防波堤全体の沈下、堤頭箇の傾斜、灯台の消失、基礎捨石マウンドの洗掘
2	常陸那珂港区_東防波堤	—	5,411.0m	ケーソン式	-25.5m	+4.5m	0.10	9.0m	・基礎捨石マウンドの洗掘
3	常陸那珂港区_東防波堤付帯工（長周期波対策）	—	440.0m	捨石式	-19.0m	+2.5m	—	440.0m	・捨石マウンドの沈下、断面欠損

外郭施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	日立港区_本港地区東防波堤(波除堤)	—	50m	重力式波除堤	-5.2m	+4.0m	—	10m	・本体及び消波ブロックの消失
2	日立港区_第5心頭護岸（導水）	H24	170m	護岸	—	—	—	170m	・護岸の沈下・破損
3	常陸那珂港区_北心頭地区波除堤（北）	平成6年度	波除堤(南)40m	直立消波ブロック式	-9.0m	+3.0m	—	波除堤(南)40m	・波除堤周辺で高所洗掘・波除堤（南）の堤頭部の最下段の直立消波ブロックが1個、引き波により抜けだし開口部に転落
4	常陸那珂港区_北心頭地区波除堤（南）	平成6年度	波除堤(北)30m	直立消波ブロック式	-9.0m	+3.0m	—	波除堤(北)30m	
5	大洗港区_北波除堤	S53	117m	直立消波式	-5.0m	+2.70m	—	47m	・本体崩壊
6	大洗港区_南波除堤								
7	大洗港区_西防砂堤	H21	37m	直立消波式	-9.0m	+3.20m	—	31m	・本体崩壊
8	大洗港区_第4埠頭先端護岸（中央地区）	H5	121m	直立消波式	-3.0m	+3.00m	0.10	101m	・エプロン沈下

保留施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	日立港区_第5心頭地区岸壁(-10m)B	—	185m	ケーソン式	-10.1m	+3m	0.15	185m	・ケーソンの移動・沈下、エプロンの沈下・クラック
2	日立港区_第5心頭地区岸壁(-10m)C	—	185m	ケーソン式	-10.1m	+3m	0.15	185m	・ケーソンの移動・沈下、エプロンの沈下・クラック
3	常陸那珂港区_中央心頭地区岸壁(-9m)	—	250m	L型ブロック式	-9.8m	+3.5m	0.12	250m	・L型ブロックの移動、上部工のクラック、エプロンの沈下
4	常陸那珂港区_北心頭地区岸壁(-10m)	—	180m	ケーソン式	-10.1m	+3.5m	0.10	180m	・ケーソンの移動・沈下、エプロンの沈下・クラック、クレーンレール軌道の移動
5	常陸那珂港区_北心頭地区岸壁(-12m)	—	240m	ケーソン式	-13.1, -15.1m	+3.5m	0.10	240m	・ケーソンの移動・沈下、エプロンの沈下・クラック、クレーンレール軌道の移動
6	常陸那珂港区_北心頭地区岸壁(-14m)	—	280m	ケーソン式	-15.1m	+3.5m	0.10	280m	・ケーソンの移動・沈下、エプロンの沈下・クラック、クレーンレール軌道の移動

保留施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	日立港区_第1心頭地区A岸壁	—	120m	重力式岸壁	-4.0m	+3.0m	—	120m	・上部はらみ出し
2	日立港区_第1心頭地区1-B岸壁(-7.5m)	—	121m	重力式岸壁	-7.5m	+3.0m	0.10	121m	・エプロンの沈下
3	日立港区_第1心頭地区1-C岸壁(-7.5m)	—	130m	重力式岸壁	-7.5m	+3.0m	0.10	130m	・エプロンの沈下
4	日立港区_第1心頭地区1-D岸壁(-10.0m)	—	185m	重力式岸壁	-10.0m	+3.0m	0.10	185m	・エプロンの沈下
5	日立港区_第2埠頭地区 2-B岸壁(-9m)	—	165m	重力式岸壁	-9.0m	+3.0m	0.10	165m	・上部及びP1のひび割れ
6	日立港区_第2埠頭地区2-C岸壁(-7.5m)	—	260m	重力式岸壁	-7.5m	+3.0m	0.10	260m	・ケツ滑動
7	日立港区_第2埠頭地区2-D岸壁(-7.5m)	—	130m	重力式岸壁	-7.5m	+3.0m	0.15	130m	・エプロンの沈下
8	日立港区_第3心頭地区A岸壁	—	200m	重力式岸壁	-5.0m	+3.0m	—	200m	・上部及びP1のひび割れ
9	日立港区_第4心頭地区4-C岸壁(-7.5m)	—	130m	重力式岸壁	-7.5m	+3.0m	0.15	130m	・上部及びP1の沈下
10	日立港区_第4心頭地区4-D岸壁(-10.0m)	—	185m	重力式岸壁	-10.0m	+3.0m	0.15	185m	・上部及びP1の沈下
11	日立港区_第4心頭地区4-E岸壁(-12.0m)	—	240m	重力式岸壁	-12.0m	+3.0m	0.15	240m	・上部及びP1の沈下
12	日立港区_第5埠頭地区5-D岸壁(-12m)	—	240m	矢板式係船岸	-12.0m	+3.0m	0.15	240m	・エプロンの沈下
13	日立港区_第5埠頭地区5-A岸壁(-7.5m)	—	130m	矢板式係船岸	-7.5m	+3.0m	0.15	122.14m	・岸壁の傾斜
14	日立港区_第5埠頭地区第1船だまり	—	300m	矢板式係船岸	-4.0m	+2.5m	—	300m	・岸壁の傾斜
15	日立港区_第5埠頭地区第2船だまり	—	314m	矢板式係船岸	-2.0m	+2.0m	—	314m	・岸壁の傾斜
16	常陸那珂港区_北埠頭地区D・E・F岸壁(-7.5m)	平成9年度	390m	ケーソン式	-7.5m	+3.0m	0.14	390m	・岸壁法線で最大50cmのはらみだしが発生。また、エプロンは液状化による陥没やクラックの発生。基礎マウンドは沈下による変状。ケーソン本体の傾きは小さく再利用可能である。
17	常陸那珂港区_北心頭地区岸壁(-5.5m) G, H	平成9年度	200m	ケーソン式	-5.5m	+3.0m	0.08	200m	・岸壁法線で最大33cmのはらみだしが発生。また、エプロンは液状化による陥没やクラックの発生。基礎マウンドは沈下による変状。ケーソン本体の傾きは小さく再利用可能である。
18	常陸那珂港区_北心頭地区岸壁(-5.5m) I, J, K	平成10年度	330m	直立消波ブロック式	-5.5m	+3.0m	0.08	330m	・直立消波ブロックが全体的に海側に移動・傾斜し、エプロンは液状化による陥没やクラックが発生した。
19	常陸那珂港区_北心頭地区物揚場A, B, C	平成6年度	530m	直立消波ブロック式	-4.0m	+2.5m	0.07	530m	・物揚場法線で最大45cmのはらみだしが発生。また、直立消波ブロックが全体的に海側に移動・傾斜し、エプロンは液状化による陥没やクラックが発生した。
20	常陸那珂港区_中央心頭地区岸壁(-7.5m)	平成17年度	130m	ケーソン式	-7.5m	+3.0m	—	130m	・本体内、上部工の法線に大きな変状はなかった。しかし、エプロン部分の液状化による陥没やクラックが発生している。
21	常陸那珂港区_南心頭地区A岸壁(-5.5m)	平成4年度	180m	直立消波ブロック式	-5.5m	+3.0m	0.08	180m	・液状化の発生による空洞化によりエプロン舗装が陥没した。
22	常陸那珂港区_南埠頭地区B岸壁(-5.5m)	平成4年度	180m	直立消波ブロック式	-5.5m	+3.0m	0.08	180m	・岸壁法線で60cm程度のはらみだしが発生。また、エプロンは液状化による陥没やクラックの発生。直立消波ブロックは全体的に海側に移動して傾いている。
23	常陸那珂港区_南心頭地区C岸壁(-7.5m)	平成6年度	260m	直立消波ブロック式	-7.5m	+3.0m	0.08	260m	・岸壁法線で最大68cmのはらみだしが発生。また、エプロンは液状化による陥没やクラックの発生。直立消波ブロックは全体的に海側に移動して傾いている。
24	大洗港区_第1埠頭C岸壁(-5.0m)（中央地区）	S48	130m	直立消波式	-2.0m	+2.3m	0.05	125m	・エプロン沈下
25	大洗港区_第1埠頭地区A物揚場(-3m)・B物揚場(-2m)	S46	320m	傾斜堤	-3.0m	+2.3m	0.10	320m	・本体転倒、裏込流出
26	大洗港区_第1心頭地区F物揚場	S48	100m	直立消波式	-2.0m	+2.3m	0.05	100m	・マウンド洗掘、本体転倒
27	大洗港区_第1埠頭G物揚場(-4.0m)（水巻心頭地区）	S49	200m	ブロック式	-4.0m	+2.6m	0.05	78m	・上部工、エプロン沈下
28	大洗港区_第1心頭地区A岸壁	S49	200m	直立消波式	-5.0m	+2.6m	0.05	22m	・マウンド洗掘、上部工、エプロン沈下
29	大洗港区_第1埠頭C物揚場(-2.0m)（水巻心頭地区）	S52	140m	直立消波式	-5.0m	+3.0m	0.10	139m	・エプロン沈下

31	大洗港区_第1碼頭A-2物揚場 (-4.0m)	S43	200m	直立消波式	-4.0m	+2.5m	0.05	104m	・本体転倒, 裏込流出
32	大洗港区_第2埠頭B岸壁 (-5.0m) (中央地区), 第2埠頭C岸壁 (-5.0m) (中央地区)	S51	225m	直立消波式	-5.0m	+3.0m	0.05	130m	・エプロン沈下
33	大洗港区_第3埠頭地区東岸壁 (-8m)	S59	260m	直立消波式	-8.0m	+3.0m	0.10	260m	・マウンド洗掘, エプロン沈下
34	大洗港区_第3埠頭地区西岸壁 (-8m)	S63	270m	直立消波式	-8.0m	+3.0m	0.10	270m	・エプロン沈下
35	大洗港区_第4埠頭地区岸壁 (-9.0m) 物揚場 (-4.0m)	S63	400m	ケーソン式	-9.0m	+3.0m	0.10	400m	・本体傾斜, エプロン沈下

#### 水域施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	大洗港区_中央地区航路 (-8m)	—			-8.0m				・洗掘, 埋没
2	大洗港区_中央地区泊地 (-8m)	—			-8.0m				

#### 臨港交通施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	日立港区_第1埠頭2号・3号・4号道路	H25	437.1m					437.1m	・路面の沈下・破損
2	日立港区_第1埠頭1号・2号・6号道路, 第2埠頭1号・2号・6号道路	H25	464.0m					464.0m	・路面の沈下・破損
3	日立港区_第2埠頭3号・5号・7号道路	H25	142.0m					142.0m	・路面の沈下・破損
4	日立港区_第2埠頭8号道路	H24	29.0m					29.0m	・路面の沈下・破損
5	日立港区_第2埠頭9号道路	H25	186.7m					186.7m	・路面の沈下・破損
6	日立港区_第2埠頭9号道路, 第4埠頭1号道路	H25	133.8m					133.8m	・路面の沈下・破損
7	日立港区_第4埠頭1号~7号道路	H25	1,215.3m					1,215.3m	・護岸の沈下・破損
8	常陸那珂港区_臨港道路4号線	—	—					1100.0m	—
9	常陸那珂港区_臨港道路5号線	—	—					836.0m	—
10	常陸那珂港区_臨港道路8号線	—	—					149.4m	—
11	大洗港区_臨港道路 (2号線)	—	—					311.1m	—

鹿島港

外郭施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	外港地区防波護岸	—	380m	ケーソン式	-12.5m	+12.5m	0.1	380m	・根固・被覆ブロック飛散

外郭施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	北側護岸	S44	18.0m	控え直杭式	-3.5m	+3.5m	0.08	8.0m	・上部工ひび割れ、水叩き沈下
		S44	22.0m	控え直杭式	-4.5m	+2.5m	0.08	7.0m	・上部工ひび割れ、水叩き沈下
2	中央船溜防波堤A	H03	70.9m	直立消波ブロック式	-7.0m	+3.5m	—	10.0m	・先端部崩落
3	中央船溜消波護岸	S47	380.0m	直立消波ブロック式	-2.0m	+5.0m	0.10	5.0m	・上部工ひび割れ、直立消波ブロックひび割れ
4	北海浜側面護岸	H23	15.0m	多孔式ケーソン護岸	-7.0m	+8.5m	0.10	15.0m	・基礎捨石が流出
5	海浜第1期正面護岸	H25	294.9m	ケーソン式護岸	-6.0m	+7.0m	0.10	294.9m	・水叩舗装及び擁壁が倒壊
6	船溜南防波堤	H24	80.3m	捨石式防波堤	-1.0m	+4.0m	0.10	80.3m	・上部コンクリートが崩落
7	南海浜正面護岸	H25	315.0m	矢板式護岸	-3.0m	+6.5m	0.10	315.0m	・消波ブロックが沈下
8	南海浜埋立地導流堤	H24	50.1m	捨石式防波堤	-3.0m	+4.0m	0.10	50.1m	・根固方塊が流出

係留施設—直轄分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	南公共碼頭H岸壁 (-10m)	—	185m	鋼矢板式	-10m	+3.5m	—	170m	・エプロンの沈下
2	南公共碼頭D岸壁 (-7.5m)	—	104m 26m	鋼矢板 ケーソン式	-7.6m	+3.5m	0.10	5m 26m	・ケーソンの移動・沈下、鋼矢板の移動、エプロンの沈下・クラック
3	南公共碼頭C岸壁 (-7.5m)	—	130m	ケーソン式	-7.6m	+3.5m	0.10	130m	・ケーソンの移動・沈下、エプロンの沈下・クラック
4	南公共碼頭B岸壁 (-10m)	—	185m	ケーソン式	-10.1m	+3.5m	0.12	185m	・ケーソンの移動・沈下、エプロンの沈下・クラック
5	南公共碼頭A岸壁 (-10m)	—	185m	ケーソン式	-10.1m	+3.5m	0.12	185m	・ケーソンの移動・沈下、エプロンの沈下・クラック

係留施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	北海浜地区_第一船溜物揚場	S49	121.0m	ブロック式	-3.5m	+2.3m	0.10	121.0m	・本体部崩落
		S49	30.0m	ブロック式	-2.0m	+2.3m	0.10	30.0m	・本体部崩落
		S49	110.0m	ブロック式	-3.5m	+2.3m	0.10	110.0m	・はらみ出し、エプロン沈下
		S49	30.0m	ブロック式	-2.0m	+2.3m	0.10	30.0m	・はらみ出し、エプロン沈下
2	北海浜地区_第二船溜物揚場	S63	340.0m	直立消波ブロック式	-3.1m	+2.5m	0.10	340.0m	・はらみ出し
		S63	604.0m	直立消波ブロック式	-4.1m	+2.5m	0.10	604.0m	・はらみ出し、エプロン沈下
3	居切導水路A岸壁	不明	164.0m	セルラーブロック式	-4.5m	+2.5m	0.10	164.0m	・はらみ出し、エプロン沈下
4	中央船溜物揚場	S47	18.0m	L型ブロック式	-4.0m	+2.5m	0.10	18.0m	・ブロックはらみ出し
		S47	187.0m	控え直杭式	-4.0m	+2.5m	0.15	42.0m	・矢板はらみ出し、エプロン崩落
5	池向岸壁	H21	100.0m	控え矢板式	-6.5m	+2.5m	0.08	100.0m	・矢板倒壊、エプロン崩落
6	北海浜地区第二船溜斜路	H23	30.0m	積ブロック舗装	-2.0m	+3.0m	0.10	30.0m	・斜路工が沈下
7	北公共埠頭地区C・D・E岸壁(-10m)	H24	400.0m	鋼管矢板式岸壁	-10.0m	+3.5m	0.10	400.0m	・エプロン舗装が沈下
8	北海浜地区第一船溜物揚場	H25	90.0m	コンクリート舗装	-2.0m	+3.3m	0.10	90.0m	・コンクリート舗装が損壊
9	深芝公共埠頭岸壁	H23	80.1m	鋼矢板式岸壁	-6.5m	+3.5m	0.10	80.1m	・エプロン舗装が沈下

水域施設—補助分

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	北航路(-10m)	H23	/	/	-10.0m	/	/	/	・泊地に埠頭用地内の土砂が流入
2	南航路・中央航路	H23	/	/	-19.0m	/	/	/	・航路内にコンテナ等の支障物が散乱

臨港交通施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	北海浜臨港道路	H25	142.5m	/	/	/	/	142.5m	・アスファルト舗装が損壊
2	南公共埠頭地区臨港道路	H23	141.4m	/	/	/	/	141.4m	・道路舗装が亀裂及び陥没

その他施設

No.	施設名	完成年度	延長	構造形式	水深	天端高	設計震度	被災延長	被災状況
1	南公共埠頭フェンス	H24	556.6m	金網式フェンス	—	—	—	556.6m	・フェンスが倒壊
2	鹿島港海岸突堤(日川)	H24	59.0m	捨石式防波堤	-5.0m	+3.8m	0.10	59.0m	・消波ブロックが沈下